

104 ミヤマセセリ

(*Erynnis montanus montanus*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、中国大陸からロシア極東地域にかけて分布する。国内では北海道、本州、四国、九州に広く分布する。

県内のほぼ全域に分布し個体数も比較的多いが、近年少なくなっているように思われる。淡路島では個体数が少ない。

■ 生息環境

山地や丘陵地の雑木林の林縁、里山環境を生息地とする。分布は広く比較的個体数の多い種である。養父市八鹿町妙見など700mを越える高地にも生息し、低地の雑木林でも見られる。

しかし雑木林があればどこにでも生息しているように思われがちであるが、生息環境には敏感なようで、六甲山麓にある諏訪山公園では5カ年間の観察でも見られない。また神戸市西区でも里山環境のある寺谷では田畑でも見られるが、田園地帯の岩岡では見られない。

■ 生態

【成虫の発生時期】

成虫は3月下旬～5月下旬にかけて年1回発生し、ピークは4月中旬である。

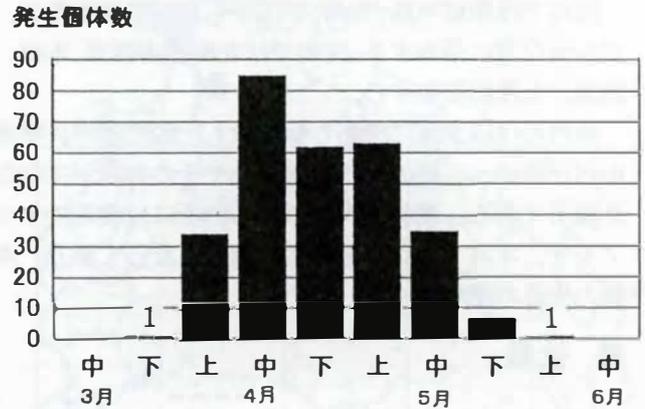
【食餌植物】

コナラ、ミズナラ、クヌギ、カシワなどコナラ亜属が食樹として知られているが県内で確認された食餌植物はコナラだけである。

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。
(バラ科)ヤマザクラ、(マメ科)フジ、レンゲソウ、(スミレ科)スミレ

ミヤマセセリの周年経過



105 ダイミョウセセリ

(*Daimio tethys tethys*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、台湾、中国からロシア極東地域、ビルマなどに分布する。国内では北海道南西部、本州、四国、九州に分布する。

県内のほぼ全域に分布し個体数も比較的多い。平地から丘陵地、山地の明るい雑木林やその林縁が主な生息場所である。樹林の周辺の明るい所には食草のヤマノイモ、オニドコロなどの生育場所となっており、本種の生息の環境と一致している。

■ 生態

【成虫の発生時期】

4月下旬～9月にかけて年3回程度発生する。第1回目の成虫のピークは5月下旬で第2回目の小さなピークが7月下旬に見られ、以降は3回目の個体の明確なピークがみられないが、連続して成虫は9月下旬まで見られる。

神戸市西区寺谷では6月中旬、7月中旬、8月下旬～9月上旬の3回の発生が見られる。6月中旬は1回目の遅い個体と思われる。

養父市八鹿町加瀬尾では1回目5月下旬～6月上旬、2回目が7月中旬～8月上旬、3回目は8月下旬～9月上旬に見られる。

【食餌植物】

県内で確認された食餌植物は次のとおりである。
(ヤマノイモ科) オニドコロ、カエドコロ、ヒメドコロ、ヤマノイモ

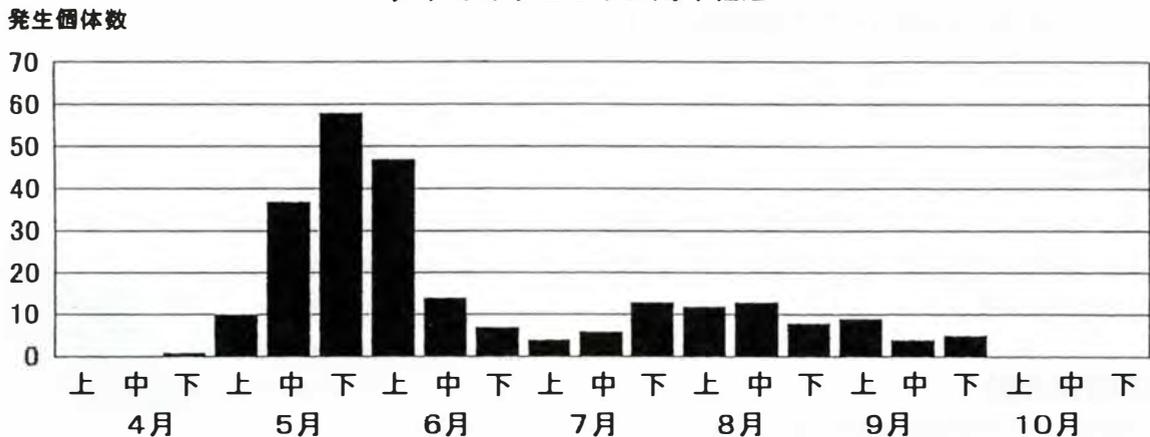
【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。
(フジツツギ科) ブッドレア, (マメ科) レングソウ, (アカネ科) ヘクソカズラ, (タデ科) ママコノシリヌグイ



ヤマノイモの葉をつづったダイミョウセセリの巣

ダイミョウセセリの周年経過



106 キバネセセリ

(*Bibasis aquilina chrysaeglia*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、中国、ロシア極東地域に分布する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。近畿以西では山地性となる。

兵庫県版レッドデータブックではCランクに選定されている。

県内での生息数は極めて少ない。1955年8月2日～5日に氷ノ山越800～1,000mで2頭の見撃記録が福知山高校生物倶楽部のPLANKTON特別号の報告で発表されており、これが県内の最初の記録である。

氷ノ山、鉢伏山、蘇父岳山塊、三国岳など県北西部の山地が分布の中心である。

■ 生息環境

県北部の落葉広葉樹林周辺の明るい草地や溪流沿いに姿をあらわす。採集場所の標高は400 m～1,000mがほとんどであるが、新温泉町(浜坂町)城山のように海に面した低地の森林にも記録がある。ただ記録の数が少なく、正確な垂直分布の確認には今後の調査を待ちたい。

本種の食樹ハリギリは、県内ではブナ帯から暖地まで県内の全域に分布している。南部では希な種であるが、但馬では比較的多いので、ハリギリの分布調査と併せて調査をすることで、新しい産地の発見を期待したい。

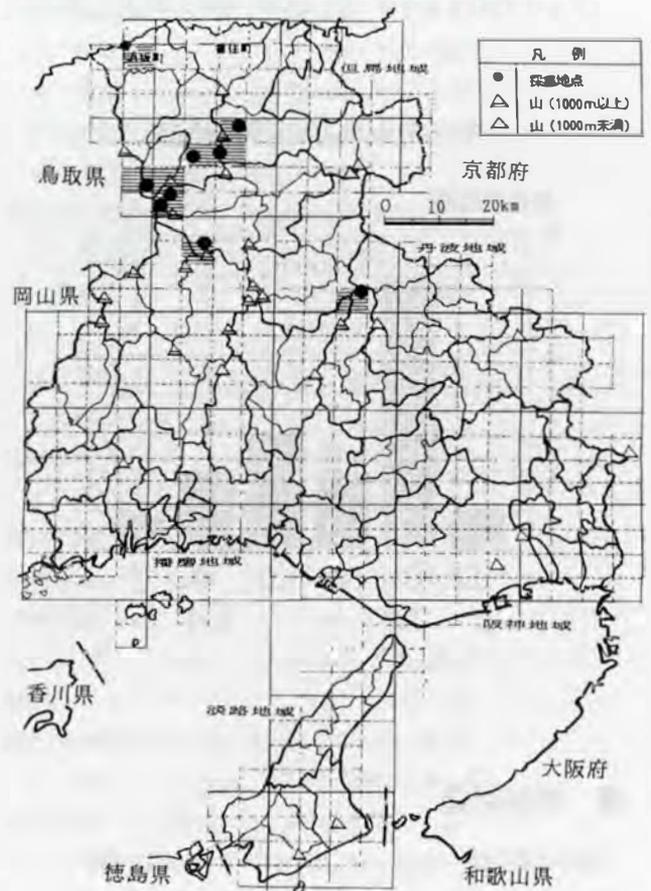
■ 生態

【成虫の発生時期】

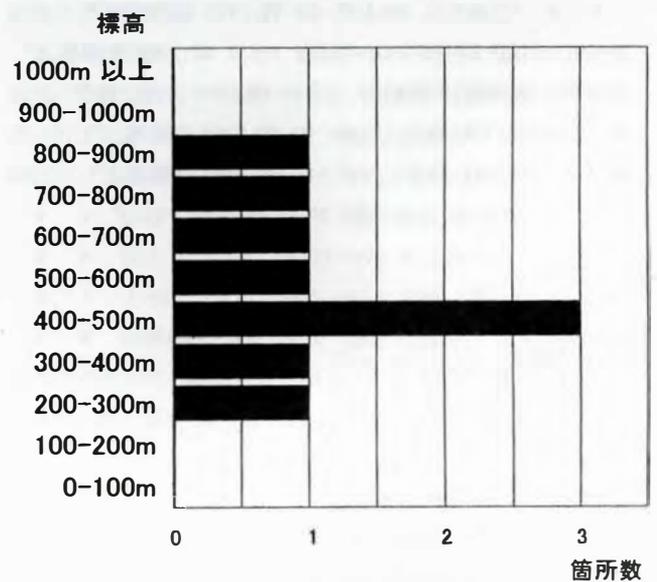
年1回 7月中旬頃に羽化するようで、県内の記録はいずれも7月中旬から8月中旬にかけてである。

【食餌植物】

他県では(ウコギ科)ハリギリを食樹としており、県内で食餌植物は確認されていないがハリギリと思われる。



キバネセセリの県内分布

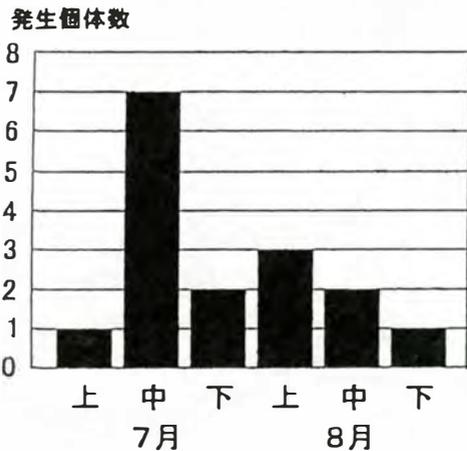


キバネセセリの垂直分布

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。
(リョウブ科)リョウブ (ミカン科)カラスザンショウ

キバネセセリの周年経過



■ 採集記録

- 三国岳北麓(目) -VI- 岡本 清¹⁴
- 豊岡市日高町金山 1♂ 16-VII-1978 木下賢司¹⁴
- 〃 〃 名色林道 1♂ 18-VII-1978 木下賢司¹⁴
- 香美町村岡区(村岡町) 兎和野高原
- 〃 〃 1♂ 23-VII-1973 福原孝好¹⁴
- 香美町小代区(美方町) 小代溪谷 1♂ 7-VIII-1992 永幡嘉之¹⁴
- 新温泉町(浜坂町) 芦屋城山 1♀ 17-VII-1994 小椋 隆¹⁰⁴
- 養父市大尾町若杉峠 1♂ 12-VII-1960 中尾淳三¹⁴
- 養父市(関宮町) 福定 1♂ 15-VIII-1988 永幡嘉之¹⁴
- 〃 〃 氷ノ山 1exs(目) 2~5-VIII-1955 ¹⁴

107 アオバセセリ

(*Choaspes benjaminii japonica*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、台湾、中国大陸南部、インドシナ、マレー半島、インドなどに広く分布する。国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

アオバセセリの食餌植物は、スミナガシと同じアワブキ科の植物で、県内の分布もスミナガシと同様に広いが、生息場所は限られる。未調査の地域が多いので、よく調べれば分布域はまだまだ広がるものと思われる。淡路島にも分布している。

■ 生息環境

淡路島では食餌植物が常緑のヤマビワで、常緑広葉樹林の林縁、山道などで見られる。本州側では、落葉広葉樹林を主な生息地とし、落葉のアワブキ、ミヤマハハソが生育する林縁、林間、山道などで見られ、雄は山頂でも見かける。垂直分布は低地から700m以下付近までが多い。

■ 生態

【成虫の発生時期】

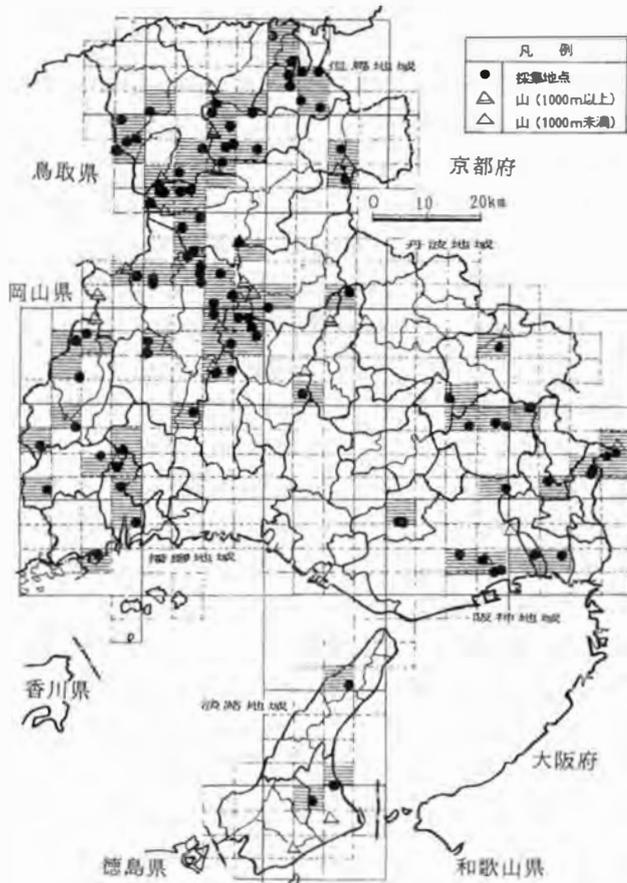
4月下旬~8月下旬にかけて年2回発生する。第1回目は4月下旬から6月中旬まで見られ、ピークは5月中旬である。第2回目は7月中旬から8月下旬まで見られるが、明確なピークは見られないが7月下旬から8月中旬にかけてが中心である。

【食餌植物】

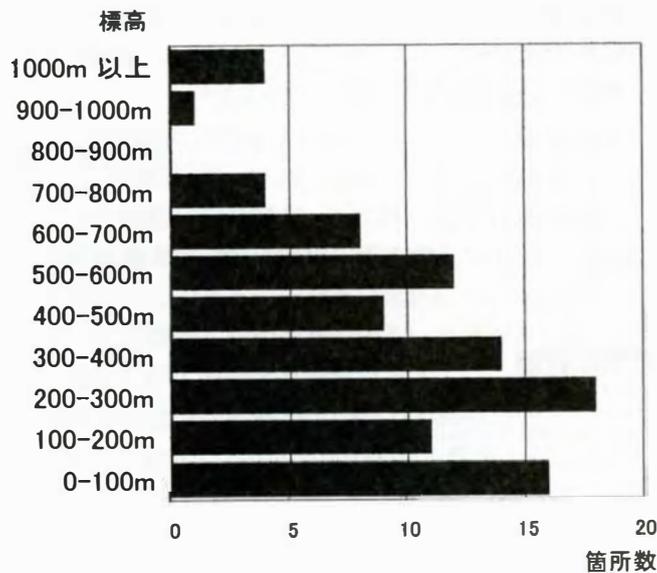
県内で確認された食餌植物は次のとおりである。
(アワブキ科) アワブキ, ミヤマハハソ, ヤマビワ

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。
(グミ科)グミ, (ミツバウツギ科)ミツバウツギ, (ユキノシタ科)ウツギ, ノリウツギ, (ユリ科)ニラ, ネギ



アオバセセリの県内分布



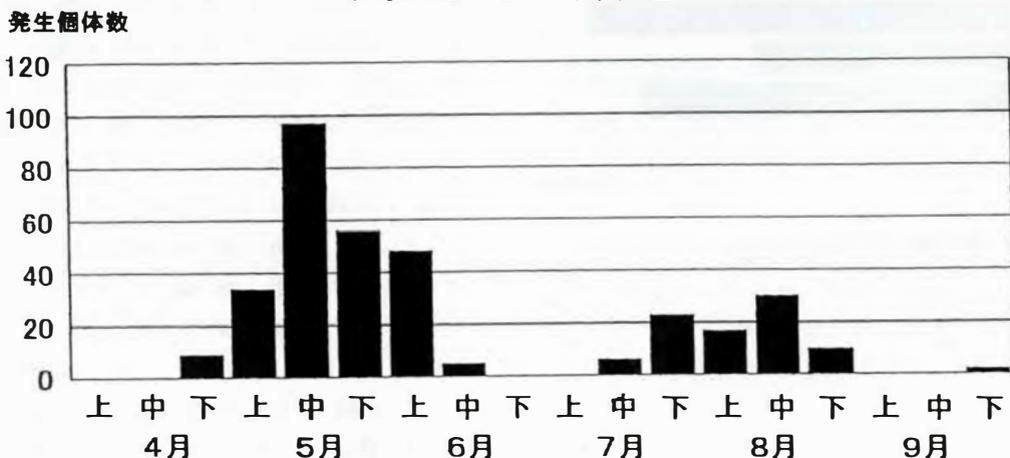
アオバセセリの垂直分布

■ 採集記録

- 川西市妙見山 1♀ -VII-1967 和田幸夫²
- 〃 笹部 17-V-1970 仲田元亮²
- 〃 大和 25-VIII-1980 仲田元亮²
- 〃 妙見新滝 1ex 08-VIII-1968 杠 隆史²
- 〃 黒川 5幼虫 27-IX-1997²
- 猪名川町大野山 数頭 12-VIII-1990 鍋島五郎²
- 〃 上阿古谷 1ex 31-VII-1998³⁶⁰
- 三田市藍本 1♀ 14-VIII-1968 高橋邦明²
- 〃 上青野 1幼虫 06-VII-1997²
- 〃 本庄 1♀ 14-VIII-1968 高橋邦明²
- 〃 乙原 2幼虫 ---²
- 宝塚市切畑 13-VIII-1988²
- 〃 普明寺 (目) 10-VIII-1975²
- 西宮市高松町 1ex 23-VIII-1969 山田英男²
- 芦屋市城山 2♂ 06-VI-1976 西 隆広²
- 【神戸市】
- 六甲山 1♂ 05-VI-1951 吉坂道雄²
- 摩耶山 三木 進²
- 灘区伯母野山村近 1♂ 01-VI-1968 杠 隆史²
- 〃 青谷 1ex 03-VI-1966 三木 進²
- 北区道場 5幼虫 17-IX-1983 有田 齊²
- 〃 山田町山の街 1♀ 24-VII-1960 尾崎 勇²
- 三木市志染中 -IX-1978 小倉 滋²
- 〃 安福田 -IX-1978 小倉 滋²
- 多可町加美区(加美町) 三国岳 多数 02-V-1959 猪俣-岡本²
- 姫路市夢前町熊部 1♂ 03-V-1985 広畑政巳²
- 〃 〃 雪彦山 2♂ 16-V-1967 米村和繁²
- 姫路市安富町安志 3♂1♀ 13-V-1964 尾崎 勇²
- 市川町上牛尾半瀬 1♂ 14-VIII-1980 広畑政巳²
- 神河町(大河内町)川上 1♂ 08-VI-1975 広畑政巳²
- 〃 〃 長谷 1♂ 18-V-1975 石井為久²
- 〃 〃 深山 3♂ 08-VI-1975 石井為久²
- 〃 〃 上小田 1♀ 26-V-1968 尾崎 勇²
- 〃 〃 砥峰高原 1♂ 29-V-2000 近藤伸一
- たつの市新宮町二柏野 1♂ 29-IV-1964 岩村 巖²
- 宍粟市山崎町蔦沢 3♂1♀ 23-V-1975 岩村 巖²
- 〃 〃 上の下 1♂ 10-V-1995 大東康人²
- 宍粟市一宮町千町 2♂ 21-V-1967 米村和繁²
- 〃 〃 志倉 幼虫 16-VI-1985 近藤伸一²
- 〃 〃 福知 幼虫 05-VII-1987 広畑政巳²
- 〃 〃 公文 6♂ 20-V-1968 岩村 巖²
- 〃 〃 上岸田 1♀ 21-V-1968 岩村 巖²
- 〃 〃 小原 1♂ 27-V-1975 岩村 巖²
- 〃 〃 倉床 1♀ 18-V-1975 尾崎 勇²

〃 〃 藤無山林道	1♂1♀	05-V-1998	大東康人 ²	〃 〃 三上山 ²	妙見山 ²
宍粟市波賀町赤西溪谷	4♂1♀	18-V-1975	広畑政巳 ²	豊岡市出石町桐野	1♂ 01-V-1968 木下賢司 ²
〃 〃 音水	2♂	24-V-1968	岩村 巖 ²	香美町村岡区(村岡町) 耀山	1♀ 12-VI-1978 木下賢司 ²
〃 〃 日ノ原	2♂	24-V-1968	岩村 巖 ²	〃 〃 大笹	終令幼虫 09-X-1984 近藤伸一 ²
〃 〃 原	1♂1♀	15-V-1999	³⁶⁶	新温泉町(温泉町) 切畑	幼虫 30-VII-1981 広畑政巳 ²
〃 〃 坂の谷林道	1♂	12-VIII-2000	山岡万寿夫 ³⁶⁴	〃 〃 肥前畑	1ex 04-V-1983 黒井和之 ²
相生市大谷町天ヶ台	1♂	11-VII-1956	米村和繁 ²	〃 〃 扇ノ山	1ex(目) 13-VIII-1988 近藤伸一 ²
〃 矢野町三濃山	1♀	09-VIII-1957	唐土洋一 ²	〃 〃 海上	1ex(目) 13-VIII-1988 近藤伸一 ²
〃 矢野町二ツ木	1♂	29-IV-1965	岩村 巖 ²	〃 〃 霧ヶ滝	1ex(目) 13-VIII-1988 近藤伸一 ²
赤穂市尾崎	1♂	-IX-1962	山本康彦 ²	養父市八鹿町石原	1ex 2-VI-2001 近藤伸一
上郡町大山寺	1♂	20-VIII-1967	唐土洋一 ²	養父市(関宮町) 外野	1♂ 20-V-1962 岩村 巖 ²
〃 梅谷	2♂1♀	27-VIII-1967	中浜 潔	〃 〃 福定	1ex(目) 14-VIII-1988 近藤伸一 ²
佐用町(上月町) 須山	1♂	19-V-1963	岩村 巖 ²	〃 〃 大久保	1♂ 09-VIII-1967 宮武 ²
〃 〃 西新宿	1♂(撮)	5-V-1999	広畑政巳	〃 〃 鉢伏山	1♂ 07-VIII-1967 宮武 ²
佐用町平福	1♂	30-IX-1980	高島 昭 ²	〃 〃 東鉢伏	1♂ 03-VIII-1980 近藤伸一 ²
〃 上石井	1♂	23-IX-1981	高島 昭 ²	〃 〃 尾崎1600	1♀ 28-V-2001 近藤伸一
〃 奥海	3♂3♀	16-V-1981	高島 昭 ²	〃 〃 水ノ山 ²	
豊岡市栴江	1♀	14-V-1994	宮垣陽次 ²	養父市大屋町藤無山	1♂ 05-VI-1979 福井丈嗣 ²
〃 三開山	1♂	22-V-1963	木下賢司 ²	〃 〃 須留ヶ峰	1♂ 06-VI-1983 福井丈嗣 ²
〃 河梨峠	1♂	14-V-1966	木下賢司 ²	〃 〃 天滝	幼虫 15-IX-1984 近藤伸一 ²
〃 妙楽寺		22-V-1973	谷角素彦 ²	〃 〃 横行	1♀ 18-VI-1983 高島 昭 ²
〃 滝		05-V-1968	吉田 ²	〃 〃 筏	2exs 11-V-2001 近藤伸一
〃 下鶴井		20-VI-1971	足立義弘 ²	朝来市和田山竹ノ内(糸井谷)	1♂ 16-V-1978 木下賢司 ²
豊岡市城崎町来日	1♂	14-V-1975	木下賢司 ²	〃 〃 藤和	1ex 16-V-1999 竹井 一 ¹⁷⁸
豊岡市竹野町阿金谷	1ex	25-IV-1964	小崎茂樹 ²	朝来市生野町栴原	4♂ 08-VI-1975 森下泰治 ²
豊岡市日高町稲葉	2exs	31-VII-1953	小崎茂樹 ²	丹波市氷上町三原	中令幼虫 9-X-2001 近藤伸一
〃 〃 稲葉三川山山麓	1♀	24-VII-1994	大東康人 ²	篠山市藤岡ダム	1♀ 24-VIII-1997 杠 隆史 ²
〃 〃 金谷	1♂	17-V-1964	木下賢司 ²	篠山市今田町四斗谷	1♀ 25-V-1996 ²
〃 〃 金山麿村	1♂	16-V-1982	前平照雄 ²	洲本市鮎屋	1♀ 19-VIII-1990 菊池宏美 ²
〃 〃 名色林道	1♀	31-V-1979	福井丈嗣 ²	〃 三熊山	1♀ 23-VII-1977 近藤伸一 ²
〃 〃 大岡(大岡山)	2♂	14-V-1980	木下賢司 ²	〃 山手1丁目	1ex 27-VII-1977 近藤伸一 ²
〃 〃 森山		---	²	淡路市(津名町) 常隆寺山	1ex(目) 11-VIII-1970 登日邦明 ²
〃 〃 阿瀬溪谷		31-VII-1977	谷角素彦 ²		

アオバセセリの周年経過



108 ギンイチモンジセセリ

(*Leptalina unicolor*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、中国東北部からロシア極東地域に分布する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布するが、いずれも産地は局地的である。

環境省のレッドリストでは準絶滅危惧、兵庫県版レッドデータブックではBランクに選定されている。

県内の分布は極限され、県南東部(神戸市北区と三田市付近)、中部(神河町(大河内町)、朝来市生野町、多可町加美区、丹波市青垣町付近)、北西部(氷ノ山山麓部、三室山付近一帯)の3地域に限られている。

県南東部では神戸市北区道場町は多産地であったが、最多産地であったJR道場駅東の武庫川河川沿いの草地が、土地の改変などで食草の1つであるオオアブラスキの群落が減少し、ギンイチモンジセセリは激減した。2000年代に入り法西浩氏によって三田市南部で多くの生息場所が確認された。

中部はもともと個体数の少ない地域であったが、近年は更に少なくなり、ほとんど見られなくなった地域が多い。

北部では氷ノ山山麓の地域がまだ健在であるが、当地も個体数は少なくなった。

■ 生息環境

日当たりのよい草原や、河川敷、堤防などを好む。

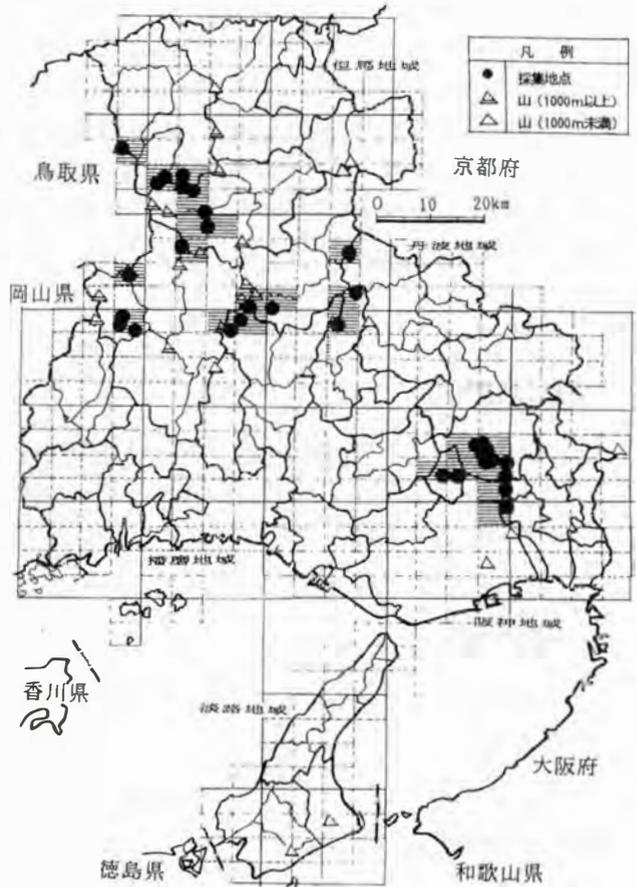
県南東部の生息地は武庫川河川敷及びその周辺のススキ原が中心である。中部及び北部は尾根部や山頂部の火山灰が堆積した台地状の明るいススキ草原や、スキー場などが主要な生息環境である。

垂直分布は県南東部では100~200mが中心であるが、その他の生息地は200mから1000mを越える地区まで分布している。

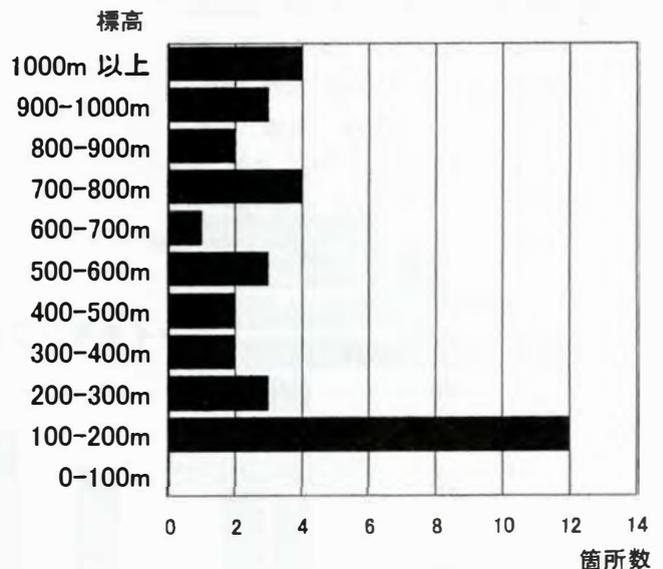
■ 生態

【成虫の発生時期】

法西 浩(2004)によると兵庫県南東部の神戸市北区道場町から三田市にかけての地域では、周年発生回数は年2回で、第1化は4月中下旬から5月上旬にかけて発



ギンイチモンジセセリの県内分布



ギンイチモンジセセリの垂直分布

生し、第2化は7月上旬から中旬にかけて発生する。しかし同地では9月の記録も確認されており年3化の発生の可能性を指摘している。

県中北部では6月中下旬が発生のピークで基本的には年1回の発生と思われるが、2004年の鉢伏高原の観察では年2化の発生が認められた。1回目が5月23日、2回目は8月13日であった。当地では1回目、2回目とも個体数が少なく、全てが2化しているのかどうかは不明である。ただ近接した東鉢伏では同年の7月19日に多数の新鮮な成虫を確認しており、これらは年1化のものと思われる。

【食餌植物】

県内で確認された食餌植物は三田市の河川敷でヨシという記録⁸¹⁸があるが、この周辺に分布するのはツルヨシであり、この記録もツルヨシであると思われる。

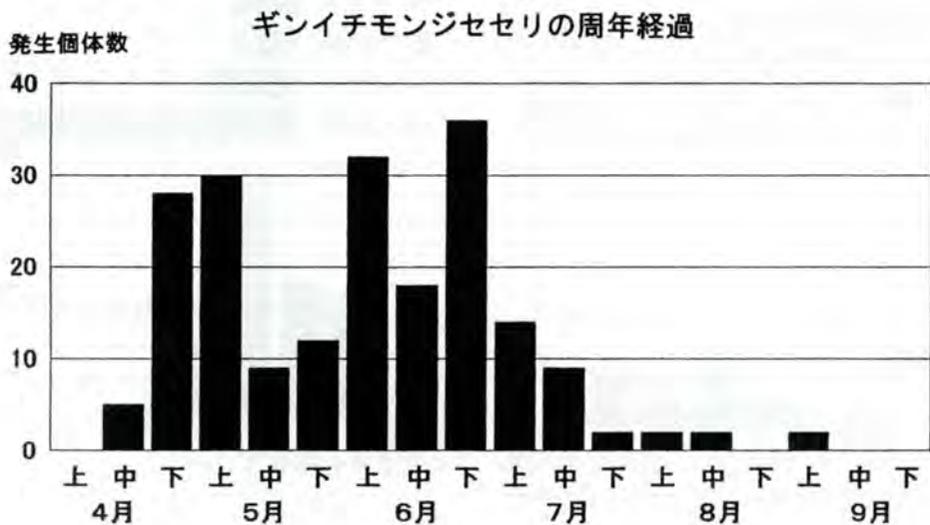
【吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は(キク科)サワオグルマだけである。

■ 採集記録

- 神戸市北区道場町 10♂7♀ 7-V-1986 高橋邦明¹⁴
- 西宮市山口町下山口1♀ 10-V-1961 尾崎 勇¹⁴
- 三田市梅の木 1♂1♀ 13-V-1977 広畑政巳¹⁴
- 〃 下田中 2exs 3-V-2003 法西 浩²⁰⁴
- 〃 広野 3♂ 14-IV-2002 法西 浩²⁰⁴
- 〃 大畑 2♂ 14-IV-2002 法西 浩²⁰⁴
- 〃 東山 3♂2♀ 28-IV-2002 法西 浩²⁰⁴
- 〃 宮脇 1♀ 3-V-2003 法西 浩²⁰⁴
- 〃 東野上 4♂2♀ 4-V-2003 法西 浩²⁰⁴

- 〃 西野上 6♂1♀ 4-V-2003 法西 浩²⁰⁴
- 〃 井ノ草 2♂ 13-VII-2003 法西 浩²⁰⁴
- 〃 長坂 2♂ 13-VII-2003 法西 浩²⁰⁵
- 三木市吉川町毘沙門 1♂ 6-IX-2003 山岡万寿夫⁹¹³
- 〃 吉安 1♂ 3-VII-2004 戸刈 淳⁹¹⁹
- 三木市 -1938 延原 肇¹⁴
- 三国岳 山口福男¹⁴
- 多可町加美区(加美町)市原 10exs(目)19-VI-1987 佐藤邦夫¹⁴
- 神河町(大河内町)砥峰 1♂ 2-VII-1975 石井為久¹⁴
- 〃 〃 峰山 3♂1♀ 26-VI-1966 米村和繁¹⁴
- 〃 〃 長曾 1♀ 2-VII-1975 石井為久¹⁴
- 宍粟市波賀町道谷 多産¹⁴
- 宍粟市千種町千種¹⁴
- 〃 〃 三室高原 3♂ 10-VII-1973 尾崎 勇¹⁴
- 〃 〃 鷹巣 1♂2♀ 16-V-1982 広畑政巳¹⁴
- 〃 〃 河呂 1♀ 25-V-1958 山本広一¹⁴
- 香美町村岡区(村岡町)瀨川山林道5exs 11-VI-1989 徳岡正巳¹⁴
- 〃 〃 ハチ北高原 相坂耕作¹⁴
- 香美町小代区(美方町)新家 1ex目撃 23-V-2004 立岩幸雄
- 〃 〃 1ex目撃 13-VIII-2004 立岩幸雄
- 新温泉町(温泉町)扇ノ山 6exs 28-VI-1991 永幡嘉之¹⁴
- 養父市(関宮町)鉢伏山 1♀ 29-VI-1963 小崎茂樹¹⁴
- 〃 〃 別宮 1ex目撃 23-V-2004 立岩幸雄
- 〃 〃 〃 1ex目撃 13-VIII-2004 立岩幸雄
- 〃 〃 葛畑 多数目撃 19-VII-2004 近藤伸一
- 〃 〃 梨ヶ山 3♂1♀ 26-V-1964 木下賢司¹⁴
- 養父市大屋町中間¹⁴
- 〃 〃 杉ヶ沢 1♀ 30-VI-2001 近藤伸一
- 朝来市生野町栃原 1♂ 6-VI-1974 尾崎 勇¹⁴
- 丹波市青垣町粟鹿山 24-VI-1953 越知研一郎¹⁴



109 ホシチャバネセセリ

(*Aeromachus inachus inachus*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、台湾、中国、ロシア極東地域にかけて分布する。国内では本州と対馬に分布するが、近畿・中国地方では産地が限定され、近畿地方では本県だけに分布し、中部地方まで大きな空白地帯となっている。

環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類、兵庫県版レッドデータブックではBランクに選定されている。

県内の分布は極限され、個体数も少ない。東限の記録は丹波市青垣町で、それより西の地域に産地が散見できる。近年は本種の生息地が急激に狭まってきており、特に西播磨では近年の採集記録を知らない。

■ 生息環境

イネ科の雑草が生える明るい草地が主な生息地で、県北部では毎年草刈りが行われる採草地、牧場などが主要な生息地である。成虫は林縁周辺の日陰の多い草地で見ることが多い。

県西部の上郡町や佐用町(上月町)では標高が100mの低地にも記録はあるが、垂直分布の中心は400m～600mの草地に多く見られる。ウスイロヒョウモンモドキ、コキマダラセセリと同じような分布のパターンで産地が一致する所も多い。

近年草刈り作業が行われなくなり、草地環境が減少したため本種の生息地も急激に狭まっている。

■ 生態

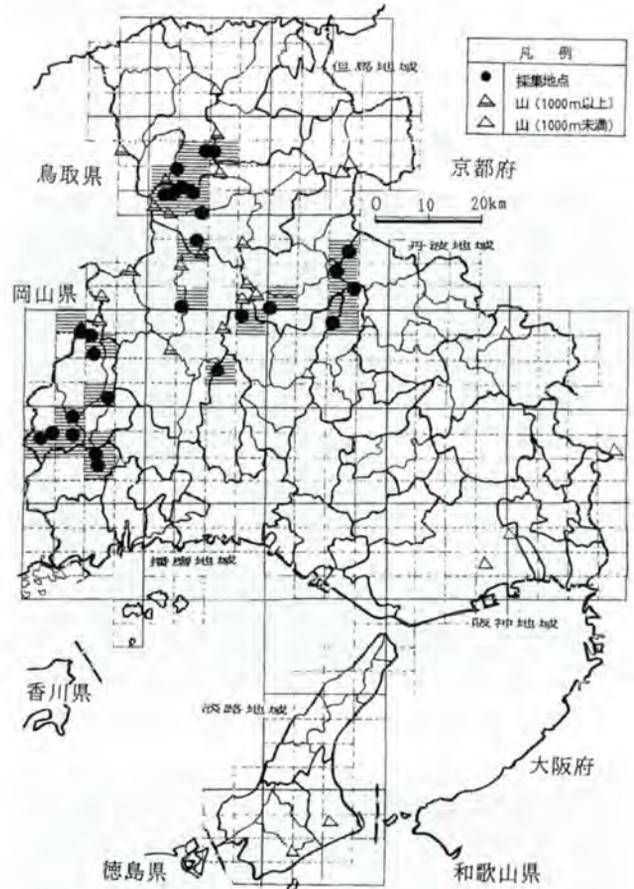
【成虫の発生時期】

県西南部では6月中旬～9月上旬にかけて年2回発生し、第1回目のピークは6月中旬である。

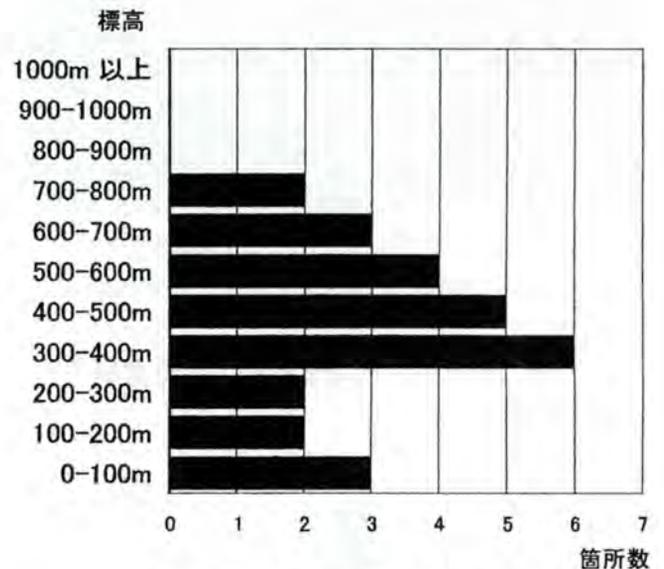
県北部では年1回の発生で7月中旬が発生のピークである。

【成虫の行動】

発生場所は毎年同じ場所で見られ、行動範囲は広く



ホシチャバネセセリの県内分布



ホシチャバネセセリの垂直分布

ない。一日の活動の開始時間は9時頃からで、他のチョウより1時間ほど早く、午後4時ごろまで活動する。

♂は周囲が見渡せるススキの葉上でテリトリーの行

動や日光浴を行うが、個体によって占有する葉の場所にこだわるものと、全くこだわらないものがある。飛び方は極めて敏速である。

【幼虫の生態】

卵は食草の低い位置の葉裏に1卵づつ産みつけられる。孵化した幼虫は、葉を裏側に巻いて、葉表を外側にして造巢する。これは他のセセリチョウ類と異なる習性である。例外的に小さな株の頂上に近い小さい葉を表側に巻くこともあるという。

冬期は幼虫が食草の枯れ葉で造った巣の中で越冬し、翌春から摂食を始め成長する。蛹は食草の葉の先端付近の葉裏で帯蛹となる。

【食餌植物】

県内で確認された食餌植物はオオアブラススキ(イネ科)で、大きな株よりも木陰に生える貧弱な株に幼虫が多い。例外的にススキも食草となっている。

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。(フジツギ科)ブuddleア、(モクセイ科)イボタ、ネズミモチ、(ユキノシタ科)ウツギ、(バラ科)シャリンバイ、(キク科)ノアザミ、ヒョドリバナ、ヒャクニチソウ、(マメ科)シロツメクサ、(サクラソウ科)オカトラノオ、(ユリ科)ネギ、

その他では獣糞を吸汁しているのが観察されている。

■ 採集記録

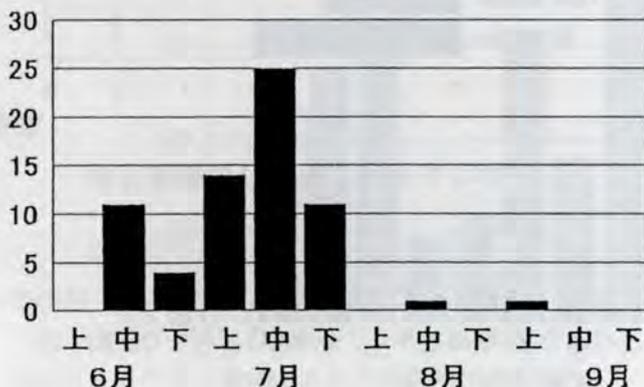
三国岳 山口福男¹⁴
多可町加美区(加美町)千ヶ峰 2♂ 16-VII-1961 猪股涼一¹⁴

姫路市夢前町雪彦山 1♂ 5-IX-1960 中谷貴寿¹⁴
神河町(大河内町)砥峰 3♂ 26-VII-1981 山本正勝¹⁴
宍粟市波賀町水谷東山高原 --- 14
上郡町大杉谷 1♂ 3-VII-1966 木下直樹¹⁴
" 野桑 --- 14
佐用町真盛 1♂ 28-VI-1970 木村三郎¹⁴
佐用町海内 2♂ 17-VI-1972 米村和繁¹⁴
" 若州 1♂3♀ 19-VI-1977 相坂耕作¹⁴
佐用町奥海 --- 14
佐用町(上月町)久崎 1exs 下旬-VI-1942 山本広一¹⁴
" " 大日山 1exs 24-VI-1950 山本広一¹⁴
" " 上秋里 1♂ 14-VI-1980 西 隆広¹⁴
佐用町(南光町)東徳久城山田倉谷 春井博文¹⁴
豊岡市日高町金山 2♂ 8-VII-1978 谷角素彦¹⁴
" " 黒田 1♂ 19-VII-1992 永幡嘉之¹⁴
香美町村岡区(村岡町)耀山 4♂ 14-VII-1978 猪股涼一¹⁴
" " 瀨川山 1♂ 21-VII-1989 徳岡正巳¹⁴
養父市大屋町若杉 1♂ 30-VII-1956 中尾 淳¹⁴
" " 杉ヶ沢 1♂ 24-VII-1977 広畑政巳¹⁴
養父市(関宮町)梨ヶ山 1♀ 25-VII-1986 永幡嘉之¹⁴
" " 葛畑 小野克巳¹⁴
" " 葛畑北牧場 1♂ 8-VII-2000 山下剛史¹⁴
" " 別宮 1♂ 8-VII-1984 小野克巳¹⁴
" " 大久保 相坂耕作¹⁴
朝来市生野町栃原 1♂ 1-VII-1973 尾崎 勇¹⁴
" " 大外 2♂1♀ 22-VII-1962 小佐々茂¹⁴
丹波市青垣町栗鹿山¹⁴
" " 鳥峠¹⁴

例記した採集記録の他に、養父市(関宮町)鉢伏山、豊岡市日高町神鍋山、宍粟市千種町三室山山麓、朝来市和田山町藤和、朝来市生野町黒川、生野峠、佐用町(南光町)下徳久、瑠璃寺などでの採集記録があるように聞かすが詳細がわからないため採集記録としては上げていない。

ホシチャバネセセリの周年経過

発生個体数



110 コチャバネセセリ

(*Thoressa varia*)

■ 分布の状況

サハリン、北海道、本州、四国、九州に分布する日本列島の特産種である。

県内の広い区域に分布し個体数も比較的多いが淡路島では少ない。平地から丘陵地、山地の明るい雑木林やその林縁が主な生息場所である。成虫は山道などでよく見かけるが、農耕地やその周辺でも見られる。

■ 生態

【成虫の発生時期】

4月下旬ごろから9月ごろにかけて年2~3回発生する。第1回目の成虫のピークは5月上旬から6月上旬まで長期にわたる。第2回目のピークが7月上旬ごろから8月上旬頃まで見られ、8月下旬に3回目と思われるピークがあらわれ、9月中旬まで見られる。

【食餌植物】

県内で確認された食餌植物はネザサだけであるが、多種のイネ科植物を利用しているものと思われる。

【幼虫】

ササの葉裏に産みつけられた卵が孵化すると、葉先の両側を糸で綴りあわせて巣を造り、葉の主脈を残すように葉を食べながら成長する。終令（5令）になると、1枚か又は2枚の葉で袋状の巣を造り、主脈をかみ切って巣を地面に落下させ、巣を引きずって落ち葉の下などに移動させて、巣の中で蛹化する。

【吸蜜植物】

林道などで地面を吸水しているのは普通に見かける。県内で観察された吸蜜植物はブッドレアとイボタがある。大根の腐ったものでの吸汁も確認されている。

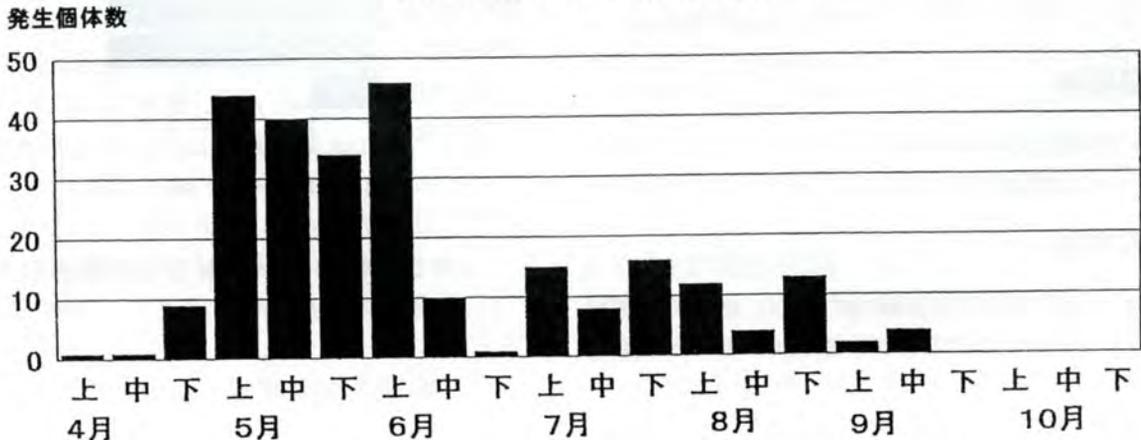


ネザサに造られた幼虫の巣 姫路市夢前町山富1981年6月28日



ネザサの主脈を食い切って地面に落下した巣
姫路市打越 1981年8月4日

コチャバネセセリの周年経過



111 スジグロチャバネセセリ

(*Thymelicus leoninus leoninus*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮、中国からロシア極東地域に分布する。国内では北海道西部、本州、四国、九州に分布する。近畿地方では滋賀県まで分布の空白地帯がある。

環境省のレッドリストでは準絶滅危惧、兵庫県版レッドデータブックではCランクに選定されている。

県内では中西部の中国山地沿いに点在しており、1973年になって東部の猪名川町三草山からの報告があるが、その近辺からの採集記録はその後確認出来ない。

■ 生息環境

草原に樹林が混在する環境や林縁部になどに生息し、佐用町(南光町)上三河、宍粟市一宮町福中など標高200m~300mの産地もあるが、その大半は400m~600mである。次種ヘリグロチャバネセセリとの混棲地は朝来市生野町栃原、神河町(大河内町)砥峰、峰山、宍粟市波賀町東山高原、姫路市夢前町雪彦山、新温泉町(温泉町)扇ノ山、養父市(関宮町)氷ノ山、養父市大屋町天滝などがある

■ 生態

【成虫の発生時期】

年1回6月下旬頃から羽化を始め、7月上旬から下旬にかけてピークがみられ、8月下旬まで記録がある。

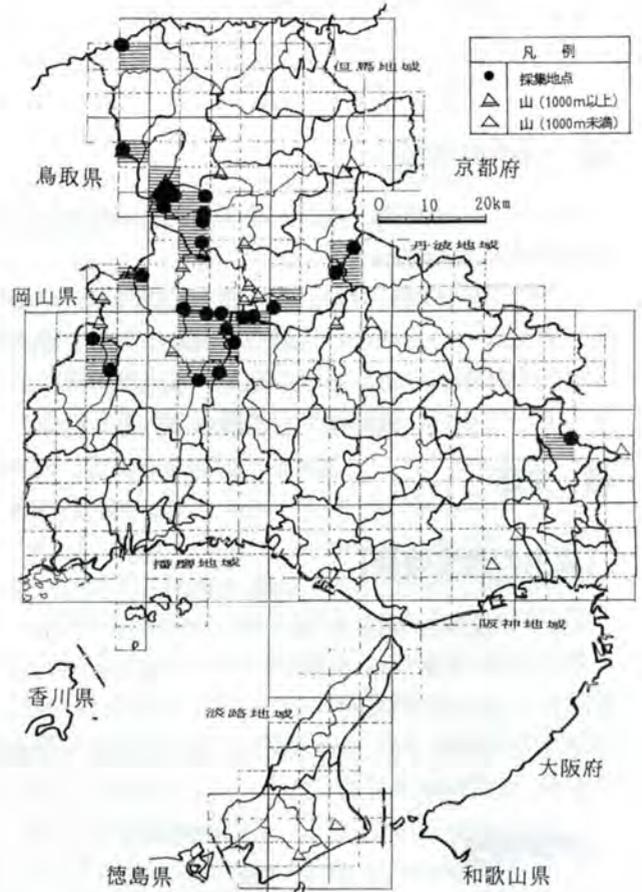
1令幼虫が葉を糸で綴った繭状の巣を作り、越冬する。

【食餌植物】

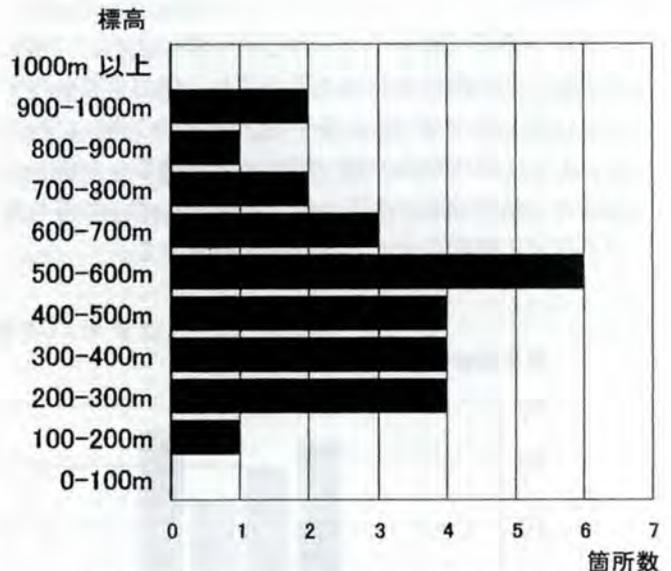
県内での食餌植物は確認されていないが、カモジグサなどのイネ科植物を食草にしているものと思われる。

【吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物はないが、他県ではアザミ、ヒメジョオンなどの花で吸蜜しているのが観察されている。

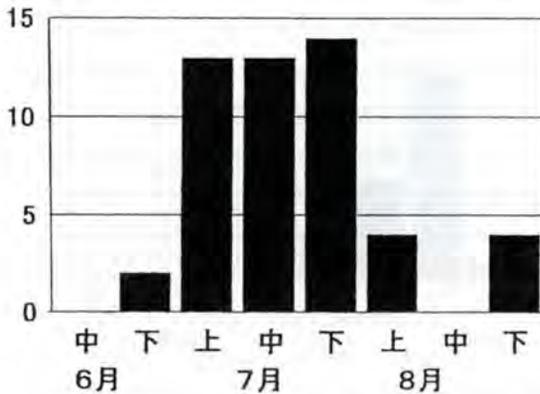


スジグロチャバネセセリの県内分布



スジグロチャバネセセリの垂直分布

112 ヘリグロチャバネセセリ

*(Thymelicus sylvaticus sylvaticus)*スジグロチャバネセセリの周年経過
発生個体数

採集記録

猪名川町三草山	22-VI-1973	勝屋 潤 ¹⁴
姫路市夢前町雪彦山	-----	¹⁴
神河町(大河内町)砥峰	1♂	2-VII-1975 石井為久 ¹⁴
〃 峰山	1♂	26-VI-1966 米村和繁 ¹⁴
〃 上小田	1♂	14-VII-1985 墨谷 健 ¹⁴
〃 川上	1♂	22-VII-1984 山本正勝 ¹⁴
宍粟市山崎町母栖		尾崎 勇 ¹⁴
宍粟市一宮町福中	2♂	22-VII-1983 山本正勝 ¹⁴
〃 〃 福知		高嶋 明 ¹⁴
宍粟市波賀町赤西溪谷	7♂3♀	18-VII-1982 徳岡正巳 ¹⁴
〃 〃 水谷東山高原	1♂	16-VII-1978 広畑政巳 ¹⁴
佐用町奥海		高島 昭 ¹⁴
佐用町(南光町)上三河	3♂2♀	3-VII-1991 山本正勝 ¹⁴
新温泉町(温泉町)扇ノ山山頂	1♂	24-VIII-1975 木下賢司 ¹⁴
新温泉町(浜坂町)城山	5♂	23-VI-2001 近藤伸一
養父市大屋町若杉 ¹⁴		
〃 〃 天滝	1♂	5-VII-1964 木下賢司 ¹⁴
〃 〃 杉ヶ沢	2♂	21-VII-1976 石井為久 ¹⁴
養父市(関宮町)鉢伏山	1♂	4-VIII-1974 徳岡正巳 ¹⁴
〃 〃 大久保	1♂	26-VII-1986 松本正孝 ¹⁴
〃 〃 福定	1♂	6-VIII-1987 永畑嘉之 ¹⁴
〃 〃 氷ノ山東尾根山麓	2♂	9-VIII-1967 宮武頼夫 ¹⁴
〃 〃 丹戸	1♂	24-VII-1986 松本正孝 ¹⁴
〃 〃 出会	2♂	8-VII-1976 西 隆広 ¹⁴
朝来市生野町栃原	1♂	26-VIII-1954 吉阪道雄 ¹⁴
〃 〃 黒川		山口福男 ¹⁴
丹波市青垣町栗山	1ex	24-VII-1952 竹内利海 ¹⁴

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、中国、ロシア極東地域、チベットなどに分布する。国内では北海道西部、本州、四国、九州に分布する。

兵庫県版レッドデータブックでは要注目種に選定されている。

県内に広く分布し、前種と違って県内の南西部、南東部の低地にも産地が多く、市街地に近接した六甲山にも分布している。

県北部には産地が広がり、海岸近くにまで分布している。また各産地とも個体数は比較的多い。淡路には記録がない。

■ 生息環境

草原に樹林が混在する環境や林縁部や明るい草原、溪流沿いの草地などで見られる。新温泉町(浜坂町)城山では、海岸に面した斜面で多数の成虫が見られる。標高が100 m前後の産地が圧倒的に多い。ただ低地だけに生息するのではなく、300m~500mの産地も多く、1,000mの山地でも記録がある。

■ 生態

【成虫の発生時期】

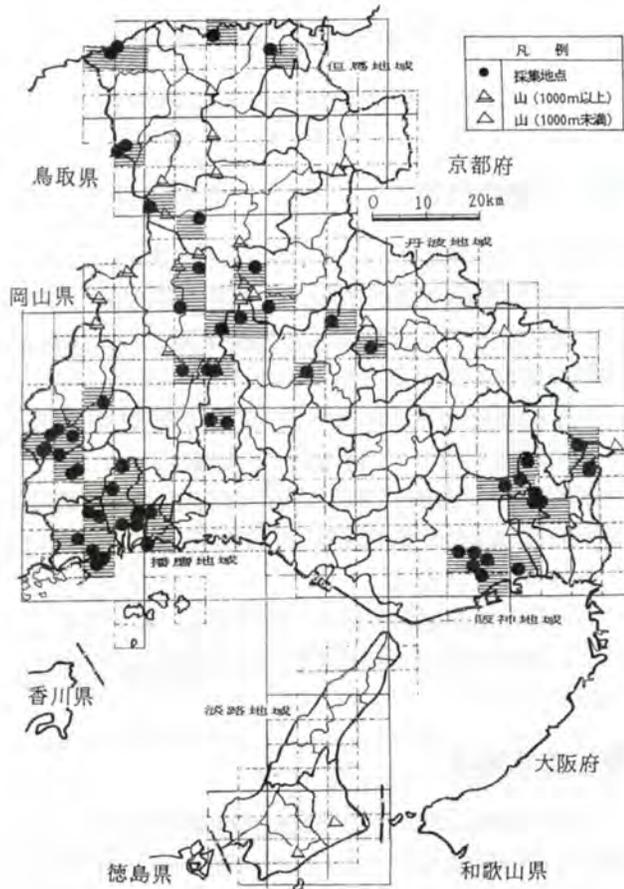
成虫は年1回の発生で、6月中旬頃から羽化し、下旬がピークで8月上旬まで見られる。

【食餌植物】

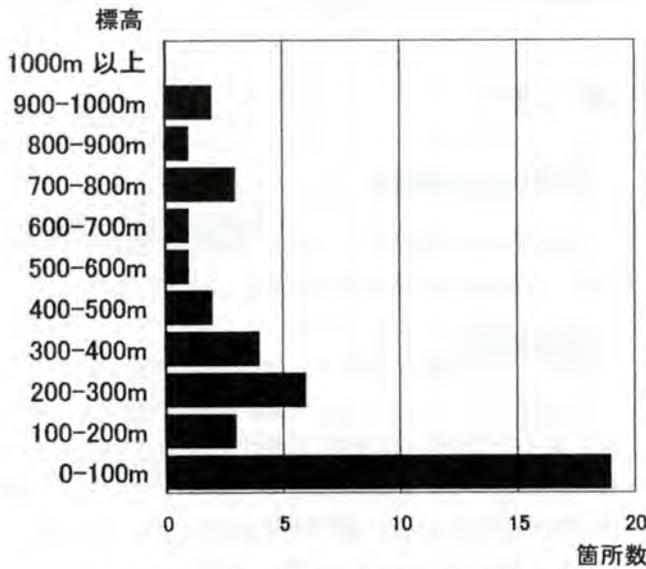
県南部ではノガリヤス、北部の香美町香住区(香住町)境や新温泉町(浜坂町)芦屋ではヤマカモジグサを食草としている。飼育するとヤマカモジグサよりノガリヤスを好むという。またミヤコザサで飼育し、終令になって後ススキに移った例などがある。

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである(キク科)ヒメジョオン、アザミ、(サクラソウ科)オカトラノオ、(トウダイグサ科)アカメガシワ



ヘリグロチャバネセセリの県内分布



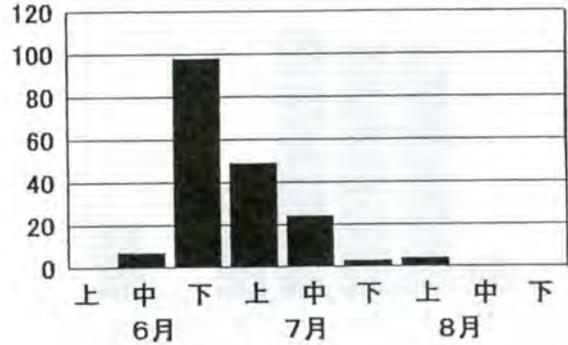
ヘリグロチャバネセセリの垂直分布

■ 採集記録

川西市出会 1♂ 26-VI-1958 田中 蕃¹⁴
 // 東谷¹⁴
 猪名川町大路次溪谷5♂ 26-VI-1958 田中 蕃¹⁴

ヘリグロチャバネセセリの周年経過

発生個体数



// 民田 2幼虫 3-VI-2000 山岡万寿夫¹⁷⁹
 宝塚市武田尾 1♂ 27-VI-1999 法西 浩⁶²⁸
 // 西谷¹⁴
 西宮市塩瀬町木之元1♂ 26-VI-1999 法西 浩⁶²⁸
 // 塩瀬町名塩 1ex(目)1-VII-2000⁸⁴¹

【神戸市】

東灘区住吉¹⁴
 灘区摩耶山桜谷 1938 増田 寛¹⁴
 中央区布引¹⁴
 // 森林植物園 1♂ 10-VII-1988 山本正勝¹⁴
 // 山本通 1♂ 22-VI-1985 杉本雅志²⁵⁶
 // 再度山 2♀ 10-VII-2000⁷⁶⁹
 北区道場町 1♂2♀ 7-VII-1968 奥田剛士¹⁴
 // 道場町千刈貯水池 2幼虫13-V-2000山岡万寿夫⁷¹⁰
 // 山ノ街¹⁴
 多可町加美区(加美町)千ヶ峰 1♂ 4-VII-1959 岡本 清¹⁴
 姫路市夢前町雪彦山 ---¹⁴
 // 神種 3幼虫 15-V-2004 山岡万寿夫⁹¹⁹
 // 苧野 3幼虫 15-V-2004 山岡万寿夫⁹¹⁹
 姫路市安富町関 1♂ 8-VII-1978 広畑政巳¹⁴
 市川町笠形山 ---¹⁴
 神河町(大河内町)砥峰 1♂ 20-VII-1975 石井為久¹⁴
 // // 峰山 1♂ 23-VII-1962 岩村 巖¹⁴
 たつの市揖保川町原 4幼虫 26-V-2001 山岡万寿夫⁸²⁶
 たつの市御津町室津 1♂ 17-VI-1994 山岡万寿夫⁸²⁸
 宍粟市山崎町清野 5幼虫 6-V-2002 山岡万寿夫⁸²⁸
 宍粟市一宮町志倉 2幼虫 VI-1978 若林守男¹⁴
 宍粟市波賀町水谷東山高原2♂ 16-VII-1978 広畑政巳¹⁴
 相生市三濃山 1♂ 19-VII-1981 苦木隆幸¹⁴
 // 佐方 1♂ 2-VII-1972 松村邦正¹⁴
 // 大谷町 3♂ 25-VI-1966 米村和繁¹⁴

〃 矢野町小河	3♂	3-VII-1966	米村和繁 ¹⁴
〃 古池	1♂	15-VI-1973	佐々木勲 ¹⁴
〃 那波野	2exs	21-V-2001	⁸²⁶
赤穂市春日	1♂	8-VII-1979	広畑政巳 ¹⁴
〃 周世	1♂	8-VII-1979	広畑政巳 ¹⁴
〃 加里屋	1♂1♀	1-VII-1972	松村邦正 ¹⁴
〃 富原	1♂	16-VI-1973	松村邦正 ¹⁴
〃 福浦	1ex	20-VI-1998	山岡万寿夫 ²⁷⁴
〃 御崎	1幼虫	10-V-2003	山岡万寿夫 ⁸²⁶
〃 奥	2exs	5-VI-2004	藤本博明 ⁹¹⁹
上郡町黒石	1♂	29-VI-1974	佐々木勲 ¹⁴
〃 柏野	1♀	26-VI-1988	西 隆広 ¹⁴
〃 苔縄	4幼虫	10-V-2003	山岡万寿夫 ⁸²⁶
佐用町(上月町)久崎	2♂	30-VI-1973	尾崎 勇 ¹⁴
〃 〃 上秋里	4♂	24-VI-1984	森下泰治 ¹⁴
〃 〃 下秋里	1♂	24-VI-1979	広畑政巳 ¹⁴
〃 〃 岡坂	1♂	24-VI-1979	広畑政巳 ¹⁴
〃 〃 西新宿	1幼虫	25-V-2002	山岡万寿夫 ⁸²⁶
佐用町(南光町)徳久	2♂	26-VI-1973	尾崎 勇 ¹⁴
豊岡市城崎町		---	¹⁴
豊岡市竹野町轟	1ex	3-VII-1963	小崎茂樹 ¹⁴
香美町香住区(香住町)境	1幼虫	19-V-2001	山岡万寿夫 ⁸²⁶
新温泉町(浜坂町)城山	3♂	23-VI-2001	近藤伸一
〃 〃 諸寄	1♂	22-VI-2002	⁸²⁶
新温泉町(温泉町)扇ノ山	1♀	1-VIII-1955	中谷貴寿 ¹⁴
〃 〃 霧ヶ滝	6♂	20-VII-1992	永畑嘉之 ¹⁴
養父市大屋町天滝	1♂	5-VII-1964	木下賢司 ¹⁴
養父市(関宮町)氷ノ山			¹⁴
朝来市(朝来町)神子畑	1♀	6-VIII-1955	山本広一 ¹⁴
朝来市生野町栃原	2♂	1-VII-1973	尾崎 勇 ¹⁴
丹波市山南町五ヶ野	2♂	5-VII-1990	山下剛史 ¹⁴

113 キマダラセセリ

(*Potanthus flavus flavus*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、中国からロシア極東地域、ビルマ、フィリピンなどに分布する。国内では北海道、本州、四国、九州のほぼ全域に広く分布する。

県内のほぼ全域に分布し個体数も比較的多い。平地から丘陵地が主な生息場所である。畑地やその周辺の草地、公園やときには市街地周辺でも見られる。また標高1300mの氷ノ山登山道でも見られた。

■ 生態

【成虫の発生時期】

6月上旬～10月にかけて年2回発生する。

第1回目の成虫は6月上旬から発生し、ピークは6月下旬である。第2回目は8月下旬頃からあらわれ、9月上旬がピークで10月中旬まで見られる。

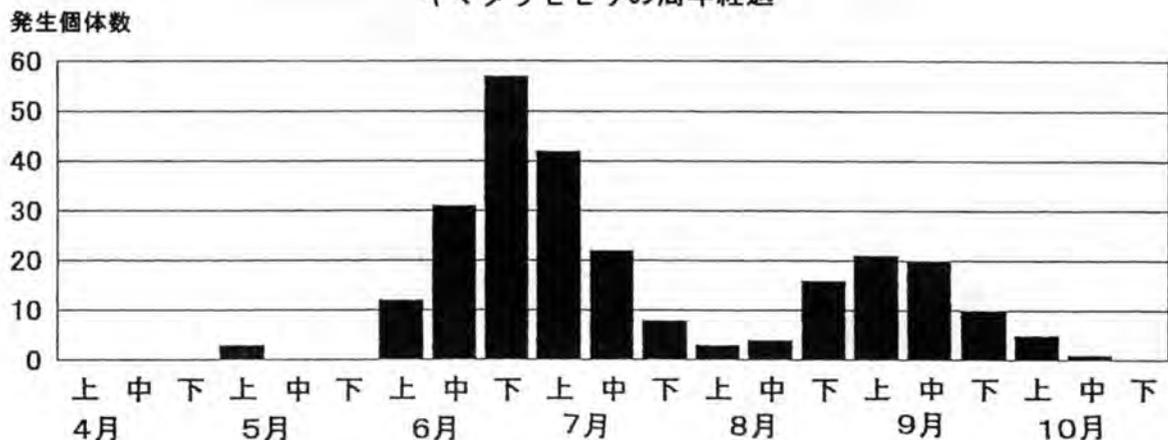
【食餌植物】

県内で確認された食餌植物はススキだけである。

【吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。
(クマツヅラ科)ランタナ、(ブナ科)クリ、(ユキノシタ科)ウツギ、(マメ科)シロツメクサ、マルバハギ、(サクラソウ科)オカトラノオ、(キク科)ヒメジョオン、ハルジオン、(オミナエシ科)オトコエシ、(カタバミ科)カタバミ、(キツネノマゴ科)キツネノマゴ、(シソ科)ブルーサルビア、(イソマツ科)スターチス、

キマダラセセリの周年経過



114 コキマダラセセリ

(*Ochlodes venatus venatus*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、東アジアからヨーロッパにかけて広く分布する。国内では北海道、本州に分布する。近畿地方では滋賀県伊吹山周辺から中国山脈の東端まで分布が途切れ空白地帯になっている。

兵庫県版レッドデータブックではCランクに選定されている。

県内では中北部、西部に局所的に分布している。

■ 生息環境

山地の明るいススキ草原や湿地周辺の草原などが主要な生息地である。

上郡町富満の記録が県内では南限で、標高も300mと低いが、それ以外の生息地は500m～800mの山地の草原である。

■ 生態

【成虫の発生時期】

成虫は6月上旬頃から発生を始め、7月上中旬がピークで、8月上旬まで見られる。年1回の発生である。

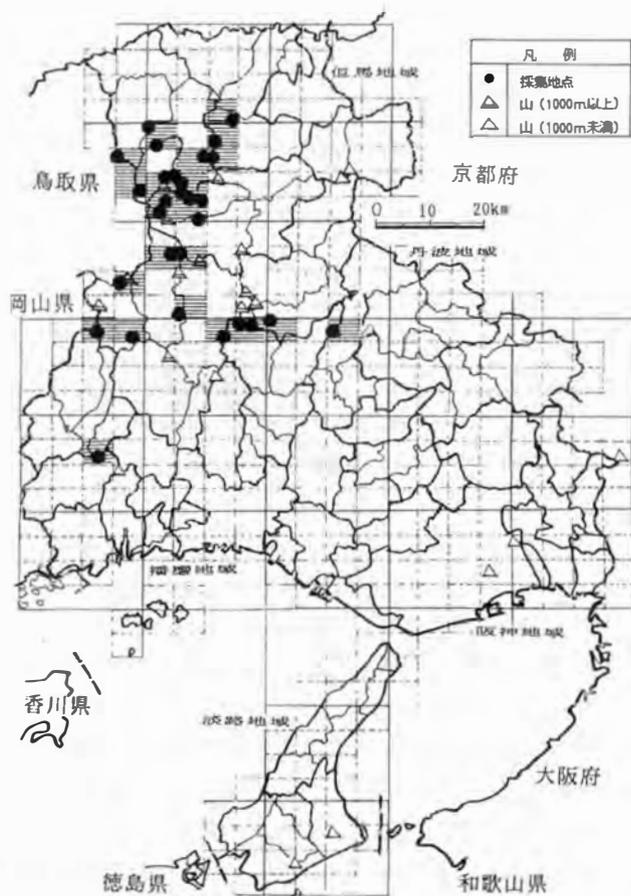
【食餌植物】

県内で確認された食餌植物はススキだけである。8月に採卵したものをススキの鉢植えでにネットで覆い飼育をすると、順調に育ち11月中旬には15mmの幼虫になった。ススキの当年の葉は枯れるが根本に新しい芽と葉があり、その葉を絡めてその中にいる幼虫と、枯れた葉と葉を絡めてその中にいる幼虫が確認できた。

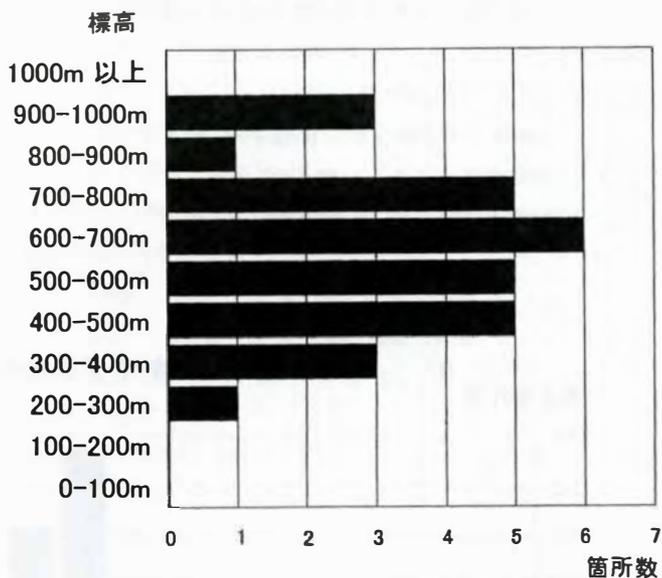
【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。

- ・ (マメ科)カラスノエンドウ、(キク科)ヒメジョオン、アザミ



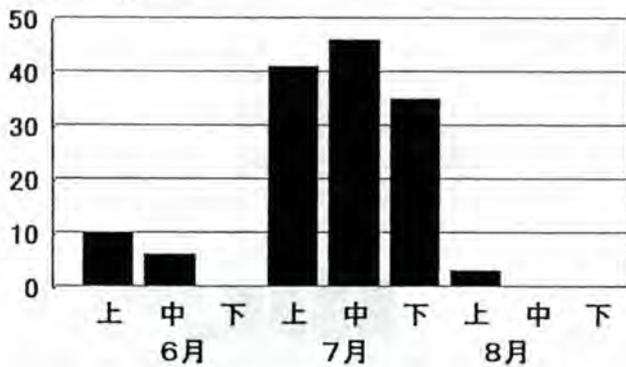
コキマダラセセリの県内分布



コキマダラセセリの垂直分布

コキマダラセセリの周年経過

発生個体数



■ 採集記録

- 多可町加美区(加美町)千ヶ峰 1♂1♀ 16-VII-1961 猪股涼一¹⁴
- 神河町(大河内町)砥峰 1♀ 1-VII-1984 広畑政巳¹⁴
- 〃 〃 峰山 2♂2♀ 11-VI-1981 西 隆広¹⁴
- 〃 〃 川上 1♂1♀ 25-VII-1981 西 隆広¹⁴
- 宍粟市波賀町水谷東山高原1♂ 15-VII-1978 石井為久¹⁴
- 〃 〃 戸倉 1♂ 4-VII-1982 山本正勝¹⁴
- 〃 〃 道谷新戸倉スキー場 1♂ 2-VII-2000 西口 隆⁹⁰
- 宍粟市千種町鷹巣 1♂ 1-VI-1985 近藤伸一¹⁴
- 〃 〃 日名倉山 1♂ 14-VII-1968 尾崎 勇¹⁴
- 〃 〃 大通峠 --- ¹⁴
- 上郡町富満 2♂2♀ 2-VI-1963 岩村 巖¹⁴
- 豊岡市日高町金山峠 1♀ 15-VII-1979 木下賢司¹⁴
- 〃 〃 蘇武岳 1♂ 30-VII-1981 福井丈嗣¹⁴
- 〃 〃 神鍋山 1♂ 5-VII-1987 徳岡正巳¹⁴
- 香美町村岡区(村岡町)糺山 2♂ 8-VII-1978 木下賢司¹⁴
- 〃 〃 瀨川山 1♂ 17-VII-1988 徳岡正巳¹⁴
- 〃 〃 大笹 1♀ 26-VII-1981 広畑政巳¹⁴
- 香美町小代区(美方町)小代スキー場 20-VI-1981 加野 正¹⁴
- 香美町小代区(美方町)美方高原 1♂ 9-VII-1978 広畑政巳¹⁴
- 新温泉町(温泉町)扇ノ山 --- ¹⁴
- 〃 〃 美原 1ex 11-VII-1982 黒井和之¹⁴
- 養父市大屋町杉ヶ沢 1♂1♀ 24-VII-1977 広畑政巳¹⁴
- 養父市(関宮町)鉢伏山6♂2♀ 21-VII-1989 徳岡正巳¹⁴
- 〃 〃 葛畑 1♀ 8-VII-2000 近藤伸一
- 〃 〃 別宮 1♀ 15-VII-1980 木下賢司¹⁴
- 〃 〃 福定 1♂1♀ 26-VII-1986 永畑嘉之¹⁴
- 〃 〃 氷ノ山東尾根山 2♀ 25-VII-1986 永畑嘉之¹⁴
- 〃 〃 氷ノ山山麓スキー場 1♀ 25-VII-1986 永畑嘉之¹⁴
- 〃 〃 出合 2♂ 8-VII-1989 西 隆広¹⁴
- 朝来市生野町板原 6♂1♀ 9-VII-1975 岩村 巖¹⁴

115 ヒメキマダラセセリ

(*Ochlodes ochraceus*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、中国からロシア極東地域にかけて分布する。国内では北海道、本州、四国、九州の低山地に広く分布する。

県内の広い範囲に分布するが、県南部では少なくなり、淡路島では見られない。丘陵地、山地の明るい雑木林の林縁などが主な生息場所である。山道や農耕地周辺でも見られる。六甲山系では400m以上の高地で見られる。

■ 生態

【成虫の発生時期】

5月中旬～9月にかけて年2回発生する。

第1回目の成虫は5月中旬からあらわれ、6月上旬が発生のピークで、7月上旬頃まで見られる。第2回目は8月上旬頃からあらわれ、8月下旬頃がピークで9月上旬まで見られる。

【食餌植物】

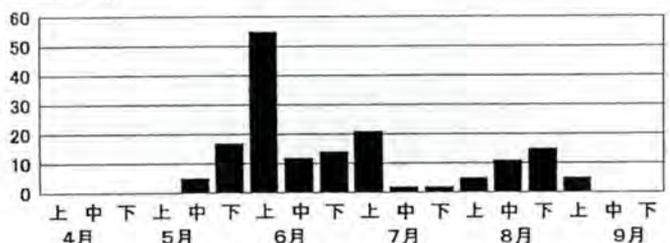
近隣県ではチジミザサ、アシボソ、ヤマカモジグサ、ススキ、メヒシバなどの報告があるが、県内は確認されていない。

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。(ユキノシタ科)ウツギ、(モクセイ科)イボク、(キク科)ノアザミ、ヒヨドリバナ、(サクラソウ科)オカトラノオ、その他ではダイコンの腐敗したものを吸汁しているのが観察されている。

ヒメキマダラセセリの周年経過

発生個体数



116 ホソバセセリ

(*Isoteinon lamprospilus lamprospilus*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、台湾、中国大陸、ベトナムなどに分布する。国内では本州、四国、九州に分布する。

県内のほぼ全域に分布するが、分布は比較的局所的で、近年減少が激しく、見られなくなった地域も多い。淡路島にも広く分布し個体数は比較的多い。

■ 生息環境

低山地のやや明るい疎林の林床や林縁の草地、山道や溪流沿いなどが主要な生息環境である。農地周辺でも見られる。但馬では海岸に面した斜面の草地にも生息している。

■ 生態

【成虫の発生時期】

成虫は6月下旬ごろから発生し7月中旬がピークで、8月上旬頃まで見られる。年1回の発生である。

【交尾例】

1991年7月14日に養父市(関宮町)大久保の草原で観察した例では、16時過ぎ、♂♀が正反対の方向を向いており、両方が同時に羽ばたくため飛べなかった。

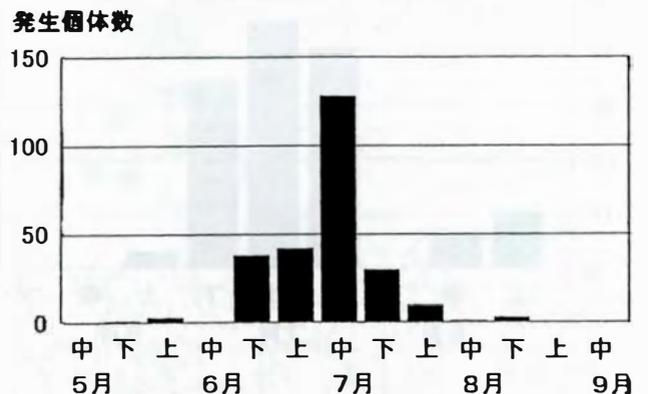
【食餌植物】

県内で確認された食餌植物はススキだけである。

【吸蜜植物】

多数の植物で吸蜜しているものと思われるが、県内で観察されたのは(キク科)ヒメジョオン、(シソ科)ウツボグサ、(サクラソウ科)オカトラノオなどがある。

ホソバセセリの周年経過



117 チャバネセセリ

(*Pelopidas mathias oberthueri*)

■ 分布の状況

国外では東洋熱帯に広く分布する。国内の分布は本州では関東以南、四国、九州、南西諸島に分布する。県内のほぼ全域に分布し、個体数も多い。

■ 生息環境

農地や河川敷など明るい草地でよく見られるが、移動力、環境に対する適応力がありそうで、集落、市街地の公園や花壇、農地、低山地の山道などあらゆる環境で見られる。ポートアイランドのような人工島でも見られた。

■ 生態

【成虫の発生時期】

5月中旬から12月上旬頃にかけて年3回程度発生する。第1回目の成虫は数は少ないが、5月中旬頃から発生し6月上旬頃に小さなピークがみられる。第2回目は7月中旬頃にピークがあらわれる。第3回目は8月中旬頃から次第に個体数をまして9月下旬頃に年間の最大のピークがあり、12月上旬頃まで見られる。遅い記録としては1988年12月19日に洲本市で新鮮な個体が採集されている。

神戸市諏訪山公園の観察では、第1回目の成虫は5月下旬頃にあらわれ、第2回目は7月中旬ごろ、第3回目は8月中旬頃から発生し、9月下旬～10月上旬がピークである。

【冬期の幼虫の観察】

冬期は幼虫で越冬する。1980年12月7日、相生市天ヶ台での観察では、2～3令の幼虫がメリケンカルカヤ、ススキの葉を2～3枚綴り合わせて巣を造り中に潜んでいるのが確認できた。場所は日当たりの良い崖で根元には5～10cmに伸びた新しい芽があり、その芽で巣を造っていた。気温が高いと巣から離れる幼虫も見られた。

【食餌植物】

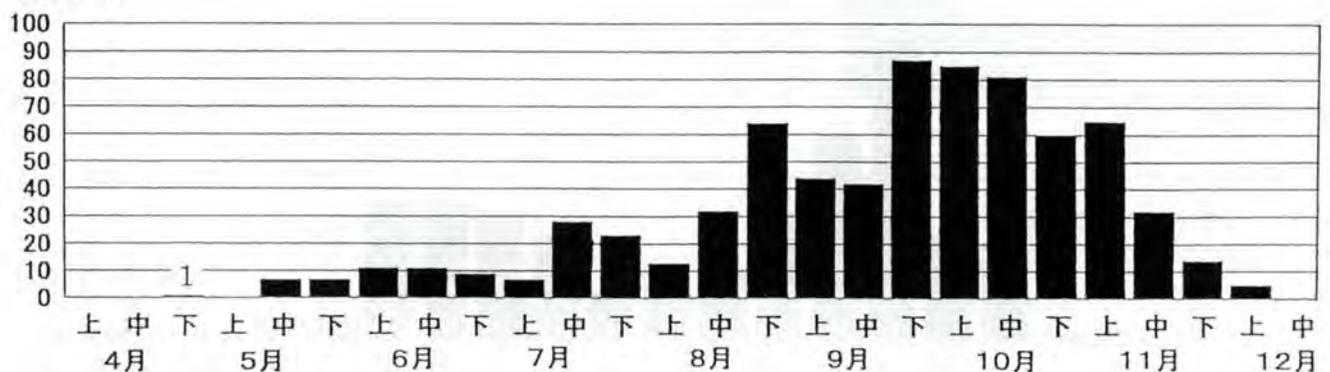
県内で確認された食餌植物はメリケンカルカヤ、ススキなどがある。

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。
 (クマツヅラ科)ランタナ<ピンク・橙・白>、パーペナ、ハマゴウ、(スイカズラ科)アベリア、(ユキノシタ科)ウツギ、(キク科)シオン、セイタカアワダチソウ、カイガラギク<黄・ピンク>、マリゴールド、セイヨウタンポポ、ノコギリソウ、ヒャクニチソウ、(オミナエシ科)オミナエシ、(マメ科)ムラサキツメクサ、ハギ、(ナデシコ科)ナデシコ、ハマナデシコ、(シソ科)ブルーサルビア、ホトケノザ、(イソマツ科)スターチス、(ヒユ科)センニチコウ、ケイトウ、(タデ科)ママコノシリヌグイ、ソバ、(ヒルガオ科)ヒルガオ、(キツネノマゴ科)キツネノマゴ、(アカバナ科)オオマツヨイグサ、(ユリ科)ニラ

チャバネセセリの周年経過

発生個体数



118 オオチャバネセセリ

(*Polytremis pellucida pellucida*)

■ 分布の状況

日本特産種で北海道、本州、四国、九州の山地から平地にかけて広く分布する。

県内でも広い区域に分布するが、淡路島での個体数は少ない。

1990年頃までは個体数が多く、山地に入ると一番最初に目につくほど個体数の多い種であったが、最近では個体数の減少が著しい。神戸市中央区諏訪山公園における観察では、1990年頃まではよく見られたが、その後減少し、見られなくなり、1997年に回復の兆しが見られたものの、1998年以降はまた見られなくなった。

■ 生息環境

比較的明るいササ原や草原を生息場所として、山地から平地にかけて広く分布する。林縁部の草地や林道周辺などでよく見かける。

イネも好んで食べるのにイチモンジセセリのようにイネの大害虫にならないのは、全く開けた明るい場所を好まないためと思われる。

【成虫の発生時期】

6月中旬～10月にかけて年2回発生する。
第1回目は6月上旬頃から発生を始め、6月下旬がピーク

クで7月下旬頃まで見られる。第2回目は8月下旬頃からあらわれ、9月中はよく見られるが10月にはいと少なくなる。

【食餌植物】

県内で確認された食餌植物はチシマザサなどのササ類とススキである。

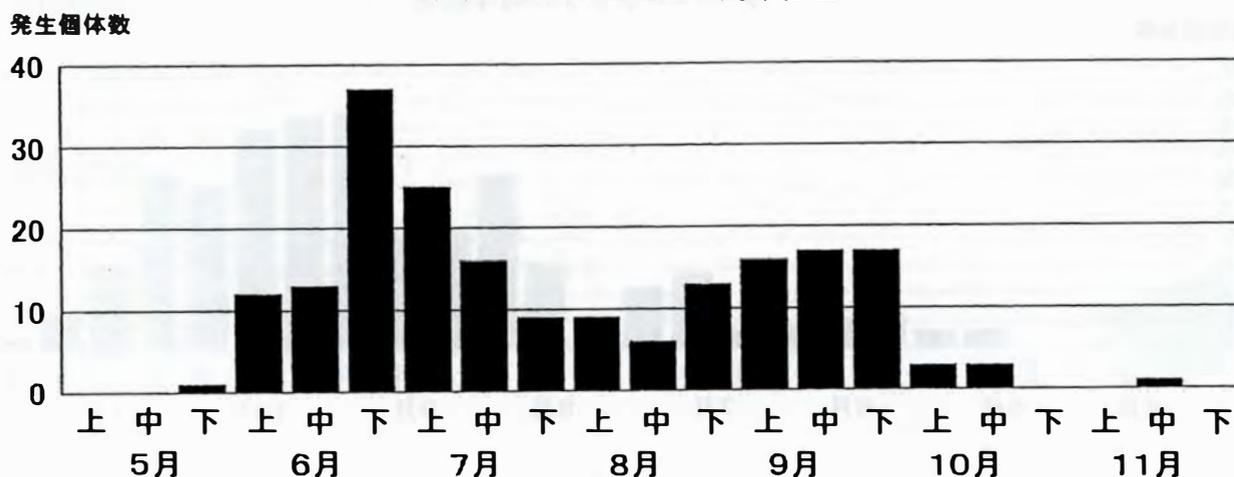
【越冬の生態観察から】

1980年12月7日に相生市天ヶ台でススキにて幼虫を発見。密生しているススキから見られず崖に生えているススキから発見できた。幼虫は葉を2枚～3枚綴り巣をつくっていた。枯れた葉には巣はなく株から生えている緑の葉を綴っていた。巣から出て動いている幼虫もあった。温かい日には摂食するのかもしれない。持ち返って部屋の中で飼育すると摂食し、糞も見られた。

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。
(ユキノシタ科)ノリウツギ, (フジウツギ科)フジウツギ, (サクラソウ科)オカトラノオ, (キク科)ノアザミ, アザミ, (ツルナ科)マツバギク

オオチャバネセセリの周年経過



119 ミヤマチャバネセセリ

(*Pelopidas jansonis*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、中国東北部に分布する。国内では本州、四国、九州の平地、山地に広く分布するが、生息地は狭く限られる。

県内では、日本海に近接した豊岡市城崎町から瀬戸内海に面した低地まで、淡路島を除く広い区域に点在するが、いずれの地域も生息地は限られ個体数も少ない。

兵庫県版レッドデータブックでは要注目種に選定されている。

西播磨北部から但馬にかけての山地に記録が集中し、丹波地域に空白区域が見られる。県内のミヤマチャバネセセリはもともと個体数の少ない種であったが、近年は特に減少したようで、氷ノ山山麓周辺以外はほとんど見られなくなっている。

■ 生息環境

溪流沿いの農地、林縁部の草地や山道、山地の草原など色々な環境で見られる。垂直分布も赤穂市や姫路市南部のような市街地に近接した低地から1000mを超す高標高地までみられ、生息環境に明確な特徴がみられない。

個体数は少なく、生息地の特徴も分かりにくいいため、県内の蝶の中では観察の困難な種といえる。

■ 生態

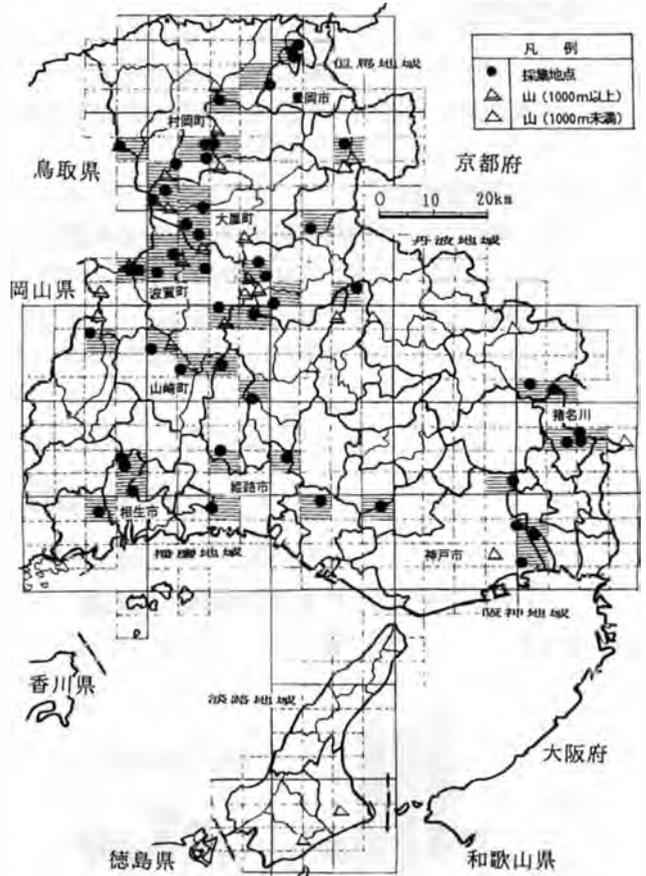
【成虫の発生時期】

5月中旬～8月にかけて年2回発生する。

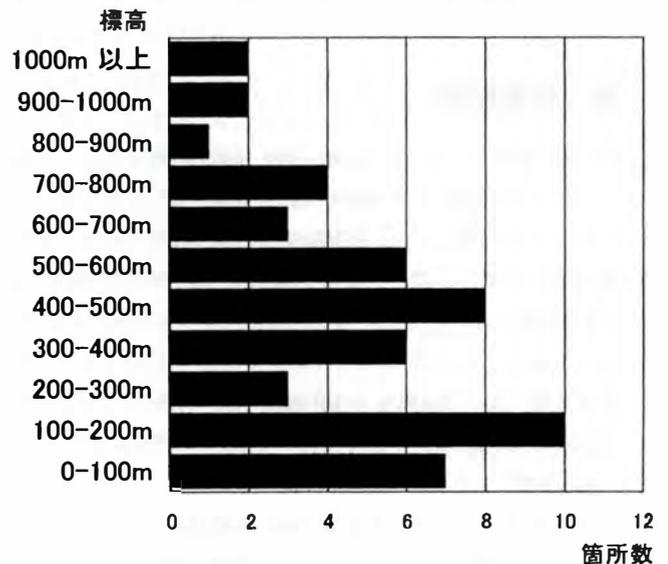
第1回目は早いものでは4月下旬から現れるが、ピークは5月中旬で6月中旬まで見られる。第2回目は7月中旬頃からあらわれ、8月上旬がピークで8月下旬まで見られる。

【成虫の生態】

日の当たる草原の中心部で他のセセリチョウ類やヒョウモン類と混生する。活動の時間帯は午前8時から午



ミヤマチャバネセセリの県内分布



ミヤマチャバネセセリの垂直分布

後5時ごろまでである。雄は周辺と高さが異なる(高いか又は低い)見通しが良く付近に障害物が少ない場所でテリトリー行動を行う。

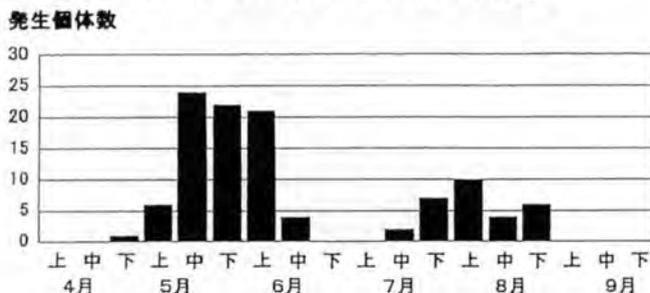
【食餌植物】

他県では主としてイネ科のススキを食草としているのは確認されているが、県内では確認されていない。

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。
(キク科)ノアザミ、ヒヨドリバナ、(サクラソウ科)オカトラノオ、(ユリ科)オニユリ

ミヤマチャバネセセリの周年経過



■ 採集記録

- 猪名川町槻並 12-VIII-1972 小坂利明⁹
- 〃 上阿古谷 1♂ 12-V-1973 長沼二郎⁹
- 〃 三草山 5-VI-1975 小坂利明⁹
- 芦屋市蛇谷 2♂ 6-VI-1981 西 隆広⁹
- 【神戸市】
- 六甲山地⁹
- 北区道場 1ex目 4-VI-1983 遠山 豊⁹
- 〃 道場町生野 1♂ 2-V-1997 山岡万寿夫⁷¹²
- 東灘区御影 ---⁹
- 三木市大村 1♂ 22-XII-1988 永幡嘉之⁹
- 加古川市志方町 高嶋 明⁹
- 多可町加美区(加美町)三国岳 1♂1♀ 30-V-1959 猪俣涼一⁹
- 多可西脇地方 ---⁹
- 姫路市広畑区才 1♂ 13-VI-1981 広畑政巳⁹
- 〃 南山田 1ex 19-VII-1980 近藤伸一⁹
- 〃 京見山 2♀ 11-V-1980 稲田和久⁸⁸
- 姫路市夢前町雪彦山 2exs ---⁹

- 福崎町七種山 1ex 26-VII-1988 森下泰治⁹
- 神河町(大河内町)川上 1♂ 8-VI-1975 広畑政巳⁹
- 宍粟市山崎町蕨沢 5♂1♀ 24-V-1975 岩村 巖⁹
- 〃 〃 与位 1ex 8-VIII-1985 近藤伸一⁹
- 宍粟市一宮町福知 1♂ 18-V-1975 岩村 巖⁹
- 〃 〃 小原 1♂1♀ 27-V-1975 岩村 巖⁹
- 宍粟市波賀町音水 1♂ 11-V-1975 尾崎 勇⁹
- 〃 〃 赤西溪谷 1♂ 21-VII-1984 唐土洋一⁹
- 〃 〃 平桑 1♂ 18-V-1980 近藤伸一⁹
- 宍粟市千種町三室山 2♂1♀ 9-VI-1975 尾崎 勇⁹
- 相生市三濃山 1ex 29-IV-1973 佐々木薫⁹
- 〃 光明寺 1ex 4-V-1974 佐々木薫⁹
- 〃 矢野町能下 1♀ 14-VIII-1982 唐土洋一⁹
- 赤穂市周世 3♂ 29-VIII-1982 広畑政巳⁹
- 佐用町奥海 1ex 31-VII-1981 高島 昭⁹
- 豊岡市矢次山 16-VI-1968 吉田⁹
- 豊岡市城崎町来日 1♀ 14-V-1975 木下賢司⁹
- 〃 〃 来日岳 27-V-1975 木下賢司⁹
- 〃 〃 元薬師奥 15-V-1975 木下賢司⁹
- 豊岡市日高町三川山 ---⁹
- 〃 〃 金山峠 3-VIII-1977 谷角素彦⁹
- 豊岡市出石町桐野 1♂ 9-VI-1974 木下賢司⁹
- 香美町香住区(香住町)御崎 1♀ 26-VII-1987 永幡嘉之⁹
- 新温泉町(温泉町)扇ノ山 多数 -1955 中谷貴寿⁹
- 香美町村岡区(村岡町)黒田 ---⁹
- 〃 〃 糺山 2♂1♀ 12-V-1978 木下賢司⁹
- 〃 〃 瀨川山 ---⁹
- 香美町小代区(美方町)新屋 1♀ 13-VIII-2004 山本 治
- 朝来市和田山町竹田 1♂ 15-V-1946 山本広一⁹
- 朝来市(朝来町)奥田路 1♂ 18-V-1975 尾崎 勇⁹
- 〃 〃 神子畑 15-V-1976 平尾英治⁹
- 養父市大屋町若杉 2exs 12-V-1974 佐々木薫⁹
- 〃 〃 横行 1♂ 8-VI-1974 尾崎 勇⁹
- 〃 〃 杉ヶ沢 1♂ 8-VIII-1982 近藤伸一⁹
- 養父市(関宮町)福定 1♂ 5-VIII-1988 永幡嘉之⁹
- 〃 〃 氷ノ山⁹
- 〃 〃 別宮 1♀ 13-VIII-2004 山本 治
- 朝来市生野町栃原 2♂ 8-VI-1975 広畑政巳⁹
- 丹波市柏原町鐘ヶ坂³⁸⁰
- 篠山市竈坊温泉 3exs 7-V-1972 浜田-藤田⁹
- 〃 曾地奥 1♀ 5-VIII-1973 浜-当麻⁹
- 〃 火打岩(小金岳と三岳の登山口付近) 1♂ 6-VI-1965 矢田 脩⁸⁸

120 イチモンジセセリ

(*Parnara guttata guttata*)

■ 分布の状況

国外では朝鮮半島、台湾、中国から東南アジア、インドなどに広く分布する。国内では北海道、本州、四国、九州、南西諸島と日本全国に広く分布している。

県内の全域に分布し、個体数も極めて多い。幼虫はツトムシと呼ばれ、イネの害虫として昔からよく知られている。

■ 生息環境

農地周辺や河川敷など明るい草地で見られるが、移動力、環境に対する適応力が強く、市街地の公園や花壇、農地、丘陵地などいろいろな環境で見られる。秋、市街地の花壇で多数群がっているのはほとんどが本種かチャバネセセリである。チャバネセセリと同様にポートアイランドのような人工島でも見られた。

■ 生態

【成虫の発生時期】

兵庫県では5月から10月ごろにかけて年3回程度発生しているものと思われる。

第1回目の成虫は早いものでは5月上旬からあらわれ、5月下旬頃にピークがみられるものの、個体数は少ない。

第2回目は7月上旬ごろから現れるがやはり個体数は少ない。8月に入ると3回目と思われる個体群が徐々に多くなり8月中旬から9月中は、おびただしい数の個体が見られる。9月後半の個体群には4回目のもの混生している可能性が高い。10月に入ると急激に個体数が減少していくようである。

神戸市諏訪山公園での観察では第1回目が5月下旬から、2回目は7月に、そして8月中旬から9月下旬にかけて3回目があらわれ、3回目の世代が年間飛来数の90%以上を占める。

高砂市の観察では、成虫の初見日はおおむね5月下旬で、終見日は10月下旬である。5～6月は成虫の発見は容易ではないが、7～8月にかけて徐々に増加し、8月中旬～9月上旬に多数の個体が見られ、9月中旬頃から急激に減少するようである。

本種をマーキングして移動についての調査が行われた結果、移動することは突き止められているが、どこからどこまでどのくらい移動するのか、また、何のために移動するのかなど解明はされていない。今後の課題である。

【食餌植物】

県内で確認された食餌植物はイネとススキであるが、他にも多くのイネ科植物を食餌植物として利用しているものと思われる。

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。
(バラ科)バラ<赤>、スモモ、(クマツツラ科)ランタナ<ピンク・橙・白>、コパノランタナ<ピンク>、パーペナ、(フジウツギ科)フジウツギ、(アオイ科)ムクゲ<ピンク>、(スイカズラ科)アペリア、(ユキノシタ科)ウツギ、(モクセイ科)オオイボタ(キョウチクトウ科)キョウチクトウ<赤>、(ミカン科)キンカン<白>、(ミソハギ科)ミソハギ、サルスベリ<赤>、(キク科)ノアザミ、シオン、ヒメジョオン、ヨメナ、ヒャクニチソウ<橙>、セイトカアワダチソウ、キク<黄・白>、ヒヨドリバナ、ノハラアザミ、ルドベキア、コウヤボウキ、アメリカセンダングサ、ヒマワリ<黄>、マンジギク、(アブラナ科)イヌガラシ(マメ科)アズキ、クズ、(ナデシコ科)ナデシコ、(イソマツ科)スターチス、(キツネノマゴ科)キツネノマゴ、(ヒユ科)センニチコウ、ケイトウ、(タデ科)ママコノシリヌグイ、(ヒルガオ科)ヒルガオ<ピンク>、(アカバナ科)ヒシ、オオマツヨイグサ、(キキョウ科)ツリガネニンジン、(ウリ科)ヘチマ、(ツリフネソウ科)ホウセンカ<ピンク>、(ナス科)ペチュニア<赤>、(ユリ科)ニラ、

■ 高砂市における成虫の観察記録

森田真澄(1975)の高砂市におけるイチモンジセセリの詳細な観察記録は次のとおりである。

【求愛行動】

求愛行動は花上や葉上で行われる。朝行われることもあるが、ほとんどが午後からで、午後1時から4時の間にピークを迎える。

求愛行動の様子

まず雄が雌の後方より頭部で雌の翅を数秒に1回程の周期で律動的につつくか又はつつくような仕草をする。それに応じて雌は翅をやや開き3~5秒間翅を振動させる。そのパターンを何回も繰り返すが、大部分のカップルは1分以内で離れてしまう。原因は他の雄が妨害したり雌が拒否するケースが多いが、雌みずから求愛行動を中止する場合もある。

求愛時間の最も長い観察例は1973年8月20日の雨のバラバラ降る中で午後4時50分~5時5分までの約15分間続いていた。

求愛行動から交尾

多くの求愛行動を観察したが求愛から交尾への移行の場面を見ることが出来なかった。交尾は求愛において余程の高揚が必要であり行き当たりばったりで交尾が成立しないようである。

【交尾について】

交尾時間

交尾の観察例として1973年8月の例は次の通り

17時20分~17時42分 (8月20日)	交尾時間22分
12時55分~13時33分 (8月21日)	交尾時間38分
16時20分~16時38分 (8月26日)	交尾時間18分
14時55分~15時29分 (8月27日)	交尾時間34分
16時55分~17時15分 (8月27日)	交尾時間20分
16時30分~ (8月28日)	
17時5分~ (8月28日)	
16時29分~17時5分 (8月29日)	交尾時間36分

これらはすべて交尾の途中よりの観察であるから実際にはもう少し交尾時間は長いことになる。

交尾中の行動

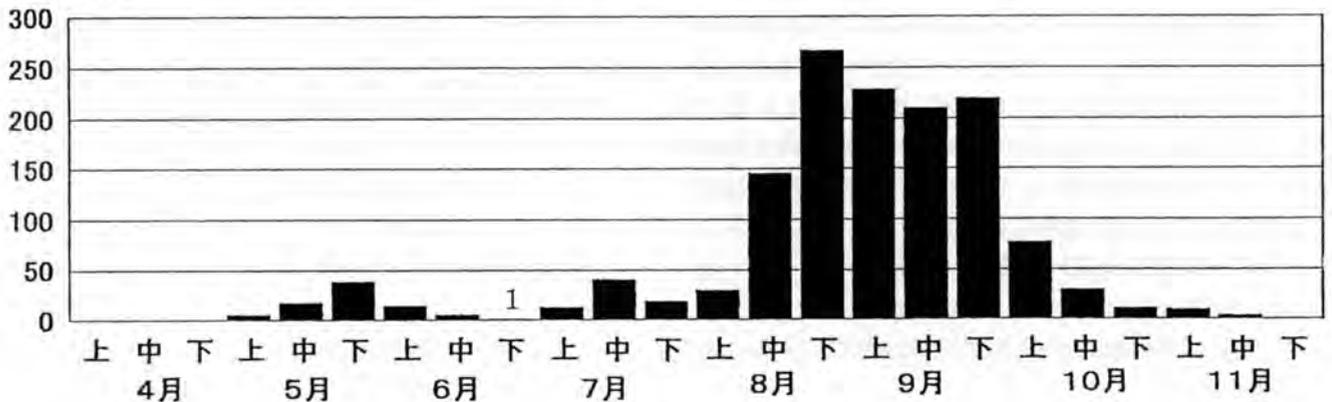
8月21日に例をとると13時10分頃から雌が雄の腹部を左後肢でかくことが多くなり雄も時々、口吻を出し入れする。その後雌も口吻を出し入れする。13時20分頃には雄、雌が別々の方向へ移動しようとするため引っ張り合いのようなことをする。13時33分に分離し、雄は別の葉に静止するが雌は元の葉に1分間程いた。

交尾後の行動

8月20日観察したもので面白いのがあった。17時42分に分離してから2~3分間、雄は尾端を葉に擦りつけ、口吻を尾端にもつていき何かを吸っているような行動を続けていた。これは吸いもどしと呼ばれる行動であると思われるが、吸収しているものが何かが問題であり、この場合交尾後であるから精液を吸っていたのかもしれない。

イチモンジセセリの周年経過

発生個体数



【テリトリー】

テリトリー活動は葉上で最もよく行われ、花上でも行われる。地面から50cm～1m50cm程の高さに静止し、その占有場所に雄が侵入すると猛烈に追飛し、もといた地点の近くにもどる。

15時～19時はテリトリー活動時間であり、特に夕方になるとピヨンピヨンと、まるで跳躍するような異常な飛び方になり、占有地を防衛するのも強固になり、他の雄が一つの占有地に侵入した場合など、付近にいてテリトリー活動をしていた雄まで飛んで来て三つどもえや四つどもえの激戦になる。

しかし空が暗くなる19時頃になるとテリトリー活動も終わる。またテリトリー活動をしている個体は翅を開いて日光浴をしているものがほとんどである。

【睡眠と休息】

夜間の行動

1973年8月26日21時5分頃、庭のモチノキの葉に1ex静止していた。その個体は懐中電燈をあててよく見ると触角を付け根よりぐるぐると1秒程の周期で回転させていた。

8月27日1時に1exと同年8月27日20時39分に1exは燈火に飛来した。

昼間の休息

1973年8月に観察した例によると12時～14時にかけて葉蔭に静止する個体が数頭あった。これらは翅を閉じて静止し活動性があまりないことよりテリトリー活動をしている個体とは区別できる。

これらは高温のため活動性が低下したものであると思われる。

午前7～9時頃は、日光浴をする個体が多く、太陽に背をむけて、翅を開き傍に花があってもそれらの個体は吸蜜しようとしなない。

【個体数より見た日周期性】

次表は庭の花壇にきた成虫の数であり、明らかに日周期性が有在する。

花壇には百日草を主に多くの草花が花を咲かしていた。しかし食草であるイネ科等の植物はほとんどなくこの庭は第一次的にはエサ場としての条件はあるが産卵場としての条件はないことになる。

時間別の成虫の行動

時間 月日	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時
8.27	14 3	20 4	23 4	19 3	19 3	11 5	7 10	5 8	3 6	1 8
8.28	— —	23 5	20 4	19 2	16 1	16 1	12 7	9 6	3 13	5 7
8.29	19 1	22 1	23 1	26 1	14 2	11 7	7 5	5 4	3 12	2 9
8.30	— —	— —	16 4	15 4	19 3	13 3	9 6	8 12	2 14	0 8
8.31	18 3	28 5	25 2	21 1	14 6	10 6	15 5	4 6	2 1	1 6

1973年調査 上段は訪花個体数

下段はそれ以外の個体数

この表は庭で発見した全個体を吸蜜する個体と吸蜜しない個体に分けてプロットしたもので、後者の内訳として休息する個体、テリトリー活動をする個体、求愛や交尾をしている個体等が含まれる。

しかしテリトリーする個体と休息している個体などは午後1～2時頃は区別がつかないものもいる。

また午前の吸蜜個体以外の個体はほぼ休息個体と見てよく、午後の吸蜜個体以外の個体はテリトリー活動をする個体が大部分であると見てよいと思う。この他にも個体数を調査した日もあったがほぼ同じ結果である

【占有性に関する考察】

一日の行動

早朝、庭にいた個体は睡眠よりめざめると、活動性を高めるためか日光浴をする。朝から昼まえにかけて多くの個体がどこからとも無く観察地である庭に飛来する。この時間帯、多くの個体は吸蜜する。

昼すぎから個体数は減少し始めるが、テリトリー活動を始める個体が多くなり、夕方はほとんどが占有性を持つ個体で占められ、吸蜜する個体はほとんどない。

暗くなるころテリトリーは消滅する。

テリトリー活動と交尾場所との関連

前述の交尾8例でいうと、テリトリー活動をしている個体が占有地で交尾していたものが3例で、他の5例は花壇で交尾していた。

占有地を持っている個体も、花上で吸蜜しているような占有地を持たない雄も、近くに雌が飛来してくると求愛行動をとることがあり、むしろ後者の方が多い。

この行動は午後限定され、午前では雄が吸蜜している所に雌が飛来してきても求愛はおこらず、2個体ともども吸蜜する。

交尾とテリトリ-活動の時間帯との関係

占有性の最も激しくなるのは夕方頃である。一方交尾の時間帯は午後である。交尾時間とテリトリ-時間は重複しているが、その交尾がすべて占有地内で行われる可能性は少ない。占有性にも強度があり、昼すぎ頃などは弱い。

またテリトリ-活動の最盛期である夕方頃は庭にいる個体のほとんどがテリトリ-活動をしている個体で、雌は全くいない。

テリトリ-活動の意味は

結論として推定されることは占有性を持つことによって交尾を引き起す確率が高くなるだろうが、占有性そのものはあまり交尾には関係がなさそうである。

